

令和4年度第3回 岡山県文化振興審議会

日時：令和5年2月13日（月）

14時～15時30分

場所：ルネスホール ワークルーム

1 開 会

2 議 事

- ・ おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)の中間見直し（案）について
- ・ 令和4年度文化振興課実施主要事業について
- ・ おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)の進捗状況について
- ・ 令和5年度重点事業について

3 その他

- ・ 部活動の地域移行について
- ・ 次期指定管理者の選定結果について
- ・ 教育庁文化財課の主な取組について

4 閉 会

岡山県文化振興審議会委員

任期：2022. 2. 1～2024. 1. 31

氏 名	役 職 名
臼井 洋輔	備前市立備前焼ミュージアム館長
大原 謙一郎	公益財団法人大原美術館名誉館長
加納 容子	勝山文化往来館ひしお副館長
神崎 宣武	民俗学者
柴田 奈美	岡山県立大学デザイン学部教授
高原 洋一	岡山県美術家協会副会長
竹内 京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長
二階堂 裕子	ノートルダム清心女子大学文学部教授
松田 正己	山陽新聞社代表取締役社長

欠席

敬称略 50音順

岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日
岡山県規則第五十一号

(趣旨)

第一条 この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第二条 審議会は、次の事項を所掌する。

- 一 岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申
- 二 その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

(組織)

第三条 審議会は、委員二十名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

(委員の任期)

第四条 委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

- 2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第六条 審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

- 2 審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第七条 審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の意見の陳述)

第八条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

(庶務)

第九条 審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

(その他)

第十条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附 則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

附 則(平成二二年規則第二七号)抄

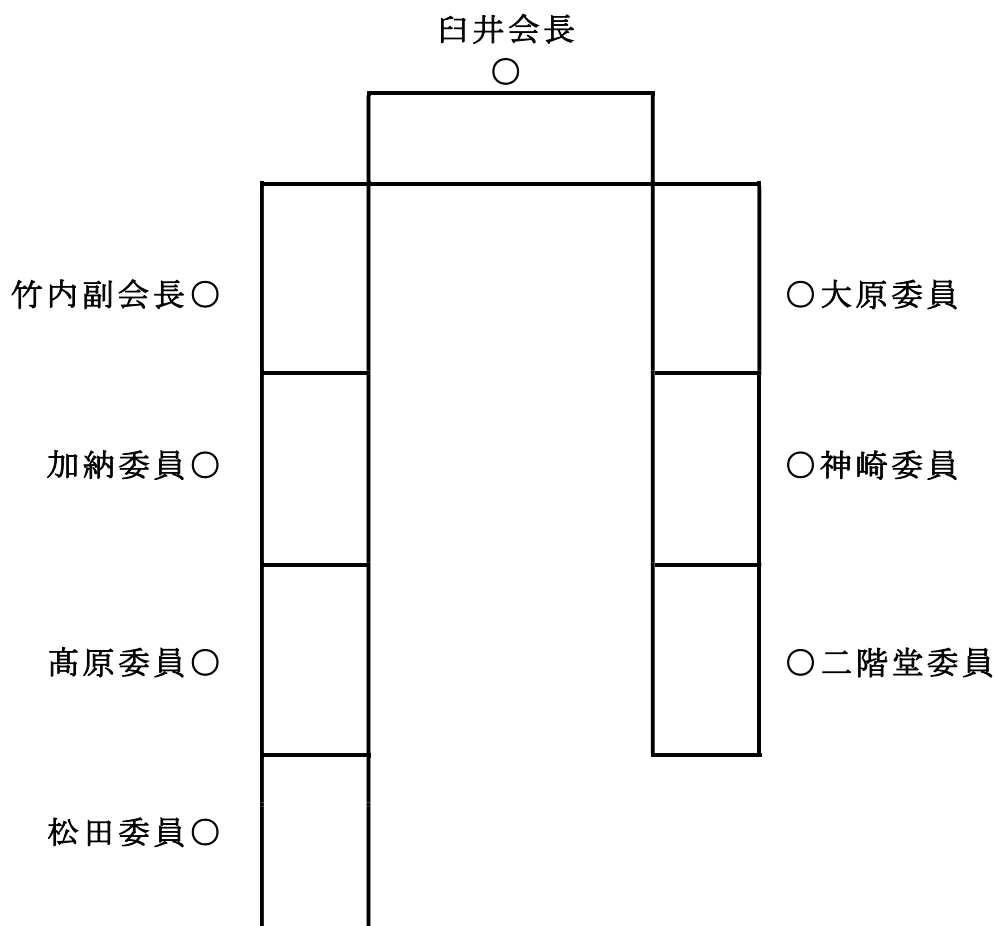
(施行期日)

- 1 この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。

令和4年度第3回 岡山県文化振興審議会 配席図

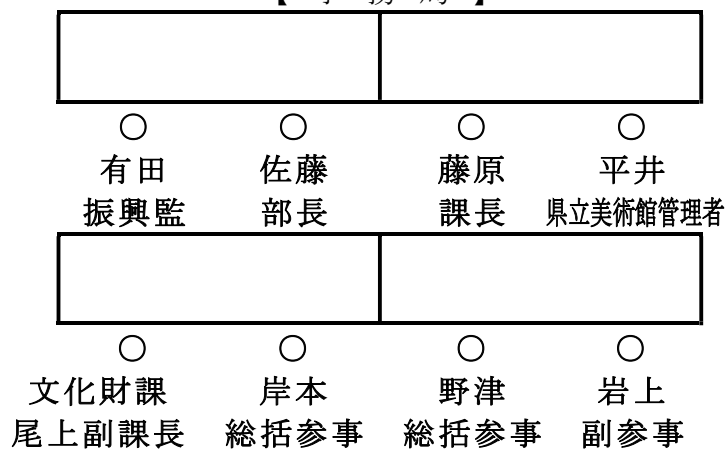
日時：令和5年2月13日（月）14:00～15:30

場所：ルネスホール ワークルーム



報道席

【事務局】



傍聴席

傍聴席

令和4年度第3回 岡山県文化振興審議会

配 付 資 料

日時 令和5(2023)年2月13日(月)

14時～15時30分

場所 ルネスホール ワークルーム

1	おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)の中間見直し(案)について・・・	1
2	令和4年度文化振興課実施主要事業・・・・・・・・・・・・・・・・	4
3	おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)の進捗状況・・・・・・・・	31
4	令和5年度重点事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	37
5	その他	
	・部活動の地域移行(国ガイドライン、県の取組)・・・・・・・・	39
	・次期指定管理者の選定結果・・・・・・・・・・・・・・・・	42
	・教育庁文化財課の主な取組・・・・・・・・・・・・・・・・	44

おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）の中間見直し（案）について

おかやま文化振興ビジョン（2018～2027）の中間見直し（素案）について、おかやま県民提案制度（パブリック・コメント）に寄せられた意見等を踏まえて、案を取りまとめた。

1 パブリック・コメントの状況

- （１）実施期間：令和４年10月24日（月）～11月23日（水）
- （２）個別周知：市町村、文化団体、文化振興課所管公益法人等に文書発出
- （３）件数：１件
- （４）意見の要旨と県の考え方

意見の要旨	県の考え方
全般 一般県民にとって最も大切なことは、広く文化を享受すること。全国や世界の文化に触れる機会の拡大、交流の拡大による心豊かな社会づくりという面が、全般にわたってもっと強調されるべきではないか。	御意見については、この度のコロナ禍を経験する中であらためてその重要性を認識しており、中間見直し案の中でもこうした記述を設けているところであります。 また、具体的な施策の推進に当たっても、御意見の趣旨をできる限り反映させていきたいと考えております。

2 素案からの変更点

- （１）成果指標の表記方法

指標の集計方法をわかりやすく明記

- （２）国の動向を踏まえた文言の加筆修正

令和４年12月にスポーツ庁及び文化庁から公表された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を踏まえて文言を加筆修正



(具体的な修正内容) 注：下線部を加筆。

【別冊P9】

V 具体的施策

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

(重点施策)

○学校教育における文化活動の充実

なお、休日の文化部活動の段階的な地域連携や地域クラブ活動への移行について、令和4（2022）年12月にスポーツ庁及び文化庁から公表された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、今後、検討が進められていく中で顕在化する様々な課題も踏まえ、地域の文化芸術団体や市町村等と連携・協力しながら、児童生徒が将来にわたって文化芸術に継続して親しむ機会を確保できるような環境整備に努めます。

3 今後のスケジュール

令和5年 本日 第3回文化振興審議会（最終案の審議・答申）

3月 決定、公表・周知

令和4年度文化振興課実施主要事業

1	アートプロジェクトおかやま推進事業	
(1)	美作三湯芸術温度 2022	5
(2)	岡山芸術交流 2022 の開催状況	9
(3)	おかやまAIR地域協働事業	13
(4)	次世代おかやまアーティスト活動促進事業	15
(5)	文化芸術オーガナイザー育成・支援事業	17
(6)	オーケストラの鑑賞機会の提供	20
2	おかやま文化芸術アソシエイツ事業	21
3	県立美術館事業	25

《説明資料の見直しについて》

県実施主要事業の説明資料について、従来は事業の趣旨及び概要を記載していましたが、今回から新たに、県の自己評価と今後の課題をお示しするため、次の項目に係る記載欄を追加しております。

1 自己評価

○ 取組や成果が事業目的を満たしているか、県が自己評価をした結果を記載しています。

また、当該自己評価結果をわかりやすくするため、達成レベルを次の5段階の数字で記載しています。

- 5 事業目的をはるかに上回って満たしている。
- 4 事業目的を十分満たしている。
- 3 事業目的をほぼ満たしている。
- 2 事業目的を満たしておらず努力が必要。
- 1 事業目的を満たしておらずかなりの努力が必要。

2 今後の課題

○ 今後の課題として、事業目的を満たした事業としていくためにさらに取り組む必要がある事項を記載しています。

美作三湯芸術温度 2022

事業の趣旨・目的	西日本有数の温泉地である美作三湯（湯原、奥津、湯郷）の宿泊施設等に、県内外の気鋭のアーティストが作品を制作・展示する回遊型アートイベント。温泉地ならではの新しい文化価値の創造と発信を行うことにより、アートによる地域活性化を図る。平成 28(2016)年から 3 年に 1 回開催しており、今回が 3 回目。 美術館やギャラリーではなく温泉地という特異な空間で、自由に話をしたり、写真を撮ったりしながらリラックスして芸術鑑賞ができるのが大きな特徴。
事業概要	1 開催実績 (1) 主催 岡山県 (2) キュレーター 岸本和明 氏（奈義町現代美術館館長） (3) 会期 令和 4 (2022) 年 8 月 27 日（土）～12 月 4 日（日）【100 日間】 (4) 開催場所 美作三湯の宿泊施設及びその周辺施設 25 か所 (5) 参加アーティスト数 26 名 (6) 来場者数 12 万 4 千人（前回比 105%） 【参考】前回の開催実績（令和元(2019)年） (1) 会期 令和元年 10 月 5 日（土）～令和 2 年 1 月 13 日（月・祝）【101 日間】 (2) 開催場所 美作三湯の宿泊施設及びその周辺施設 25 か所 (3) 参加アーティスト数 24 名 (4) 来場者数 11 万 8 千人 2 新たな取組 (1) 過去最多の 26 名のアーティストが参加 (2) 岡山デステーションキャンペーンとの連携 (3) アーティストユニットでの参加や二人のアーティストがコラボする旅館の増 (4) 美作三湯周辺の美術館等で連携企画展を実施 (5) インスタグラムでの情報発信 3 会期終了後も鑑賞できるアート作品と宿泊施設等 14 アーティストのアート作品が 15 宿泊施設等において、継続して展示されている。 （P 7 「会期終了後も鑑賞できるアート作品と宿泊施設等」参照） 4 来場者の動向 来場者の動向の把握するため、会期中にアンケートを実施した。 （P 8 「美作三湯芸術温度 2022 来場者アンケート結果（抜粋）」参照） (1) 対象者：美作三湯芸術温度 2022 の来場者 (2) 実施方法：ウェブ上のアンケートに、パソコン、スマホ等で回答 (3) 実施期間：令和 4 年 8 月 27 日（土）～12 月 11 日（日） (4) 回答数：255

●実施風景

湯原温泉（10 施設・11 アーティスト）



『Tea R』、『Tea B1』 草間結雄(湯の蔵 つるや)



『時空ピラミッド』 北川太郎(森のホテル ロシュフォール)

奥津温泉（5 施設・6 アーティスト）

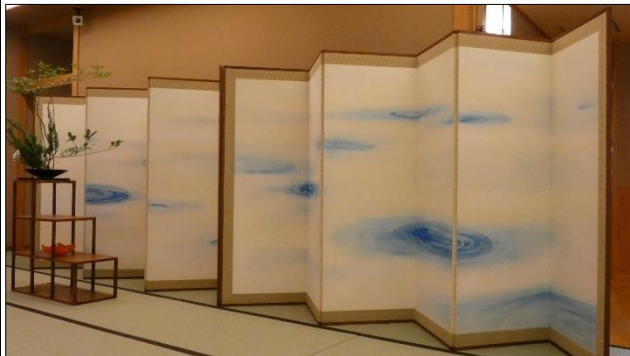


『sore-dake』、『between』 秋田美鈴(池田屋 河鹿園)



『観自在石』 松村晃泰(道の駅 奥津温泉)

湯郷温泉（10 施設・9 アーティスト）



『六曲一双屏風 水の記憶 2022-1』 森山知己(季譜の里)



『The bread of life』 小林万里子(清次郎の湯 ゆのこう館)

《事業の評価》

自己評価	キュレーター、参加アーティスト、宿泊施設等の関係者が一体となり盛り上げたことにより来場者の4人に一人が芸術温度を目的に来場するなど前回は上回る多くの方に鑑賞いただくことができた。 また、会期終了後もそのまま展示される作品が過去最多になったことに加え、温泉地がアーティストにシンボル作品の制作をお願いする動きがあるなど一過性に終わらない取組も進んでいる。 長引く新型コロナ禍の下での開催となったが、県北地域の文化芸術の振興やアートによる地域の活性化に貢献できた。	レベル 4
今後の課題	次回の開催は未定であるが、3回目の開催を通じ芸術温度の認知度が高まっている中、県北地域のユニークなアートイベントとしてさらに定着するようキュレーター等と連携し取組を進めていく。	

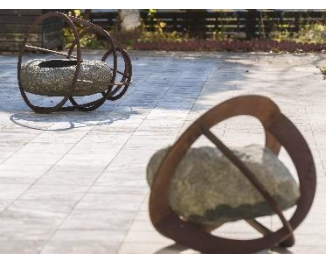
会期終了後も鑑賞できるアート作品と宿泊施設等

(令和5年2月13日現在)

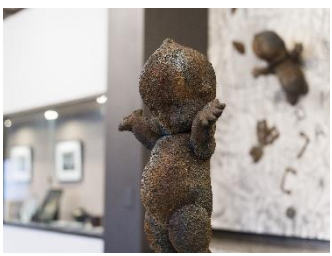
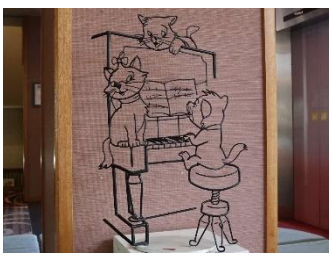
湯原温泉

			
「浮」シリーズ 児玉知己(湯快感 花やしき)	「モール・ハウス・プロジェクト」 高本敦基(ゆばらの宿 米屋)	「マリンバピンポン」ほか 原倫太郎+原游(湯原国際観光ホテル 菊之湯)	「ヤングはんぎきさん」 松岡徹(湯の蔵 つるや)
			
「3泊目のはんぎきさん」 松岡徹(元禄旅籠 油屋)	「湯原半裂天立像」 松岡徹(はんぎきセンター)	「はんぎきヴァリー」ほか 宮崎郁子(我無らん)	「真庭観瀑周遊図」ほか 山部泰司(八景)

奥津温泉

			
「文豪宿泊プラン」ほか 太田三郎(名泉鍵湯 奥津荘)	「びじんにしてもらう彫刻」 大間光記(花美人の里)	「multi LD ver.米屋倶楽部 red」ほか 中島 麦(米屋倶楽部 奥津)	「うつわ」シリーズ 松村晃泰(米屋倶楽部 奥津)

湯郷温泉

			
「連動」シリーズ 小林照尚(湯郷グランドホテル)	「2000年後の湯郷温泉ミュージアム」 柴川敏之(和モダンなお宿 かつらぎ)	「ディズニーおしゃれキャット」ほか 徳持耕一郎(ゆのごう美春閣)	「Flower bouquet」 船井美佐(花の宿 にしき園)

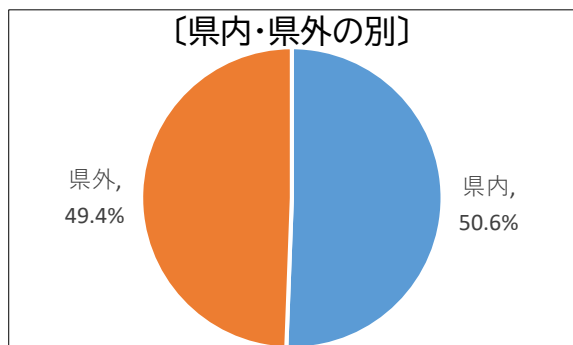
※14アーティストのアート作品が15宿泊施設等において、会期終了後も引き続き展示されています。

※今後、アーティスト、宿泊施設等によりアート作品が撤去される場合があります。

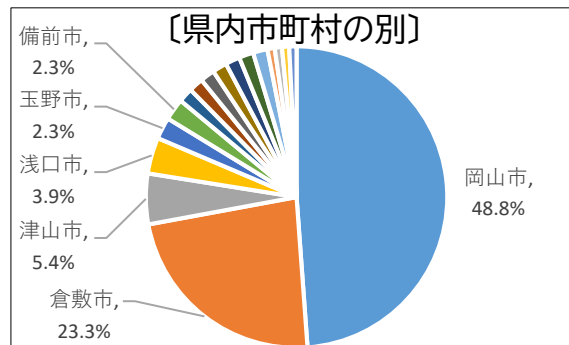
※前回開催時(令和元年)以前のアート作品で、引き続き展示されているものは含まれていません。

美作三湯芸術温度2022 来場者アンケート結果(抜粋)

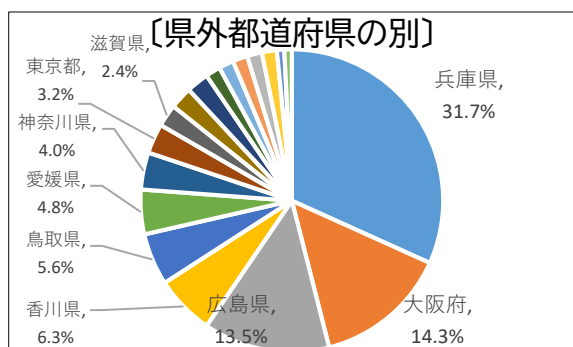
【N=255】



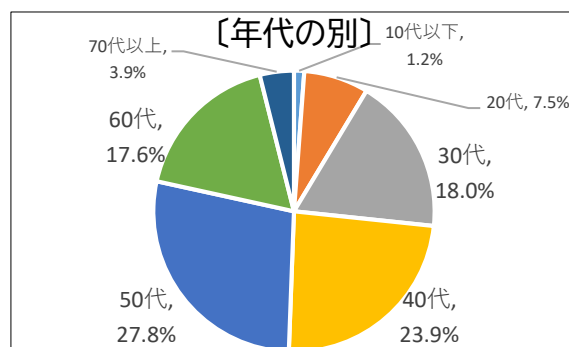
来場者は県内・県外がほぼ同数であった。



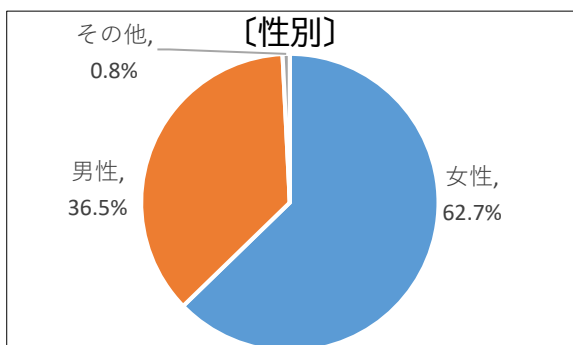
岡山市が約半数、県南地域が約9割を占めた。



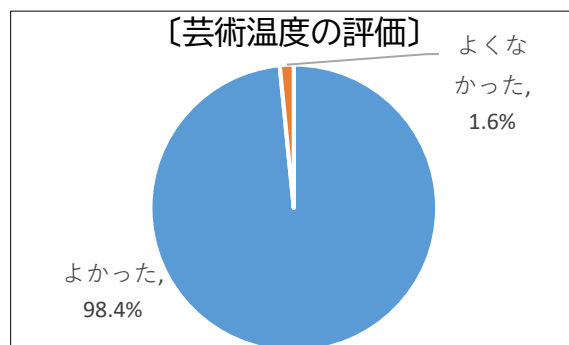
兵庫県が約3割を占め、関西圏が5割以上であった。



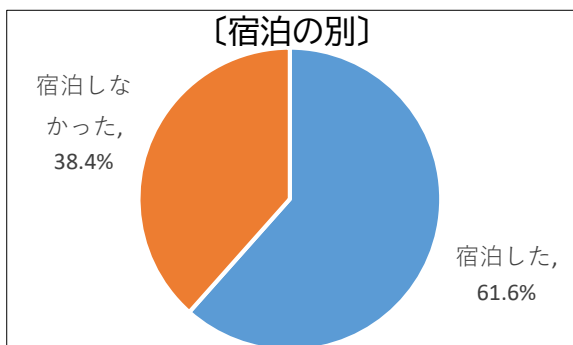
30代から60代までがまんべんなく来場した。



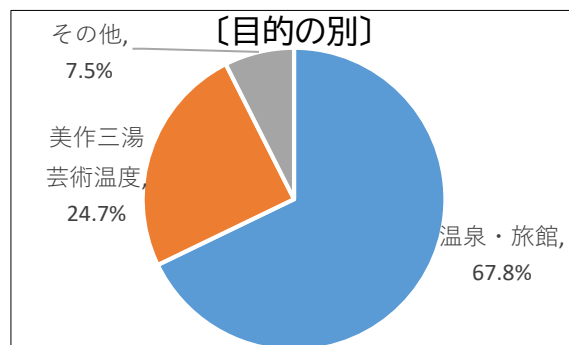
女性が約6割、男性が約4割であった。



98%以上が「よかった」と評価した。

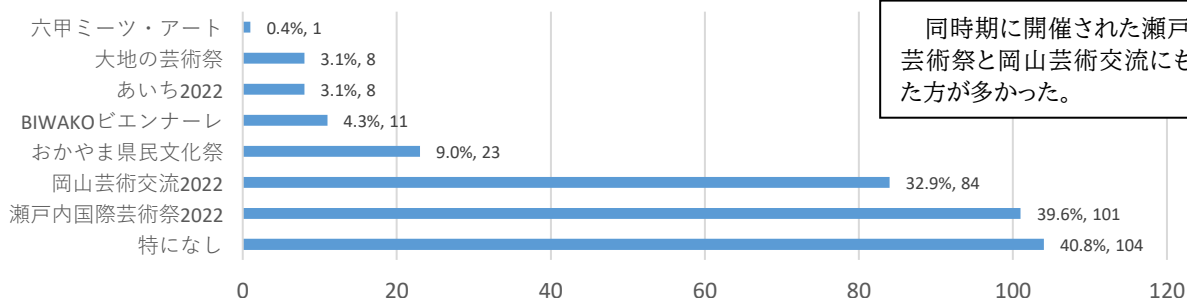


約6割が宿泊し、約4割が宿泊しなかった。



4人に1人は芸術温度を目的として来場した。

〔他のアートイベントへの参加〕※複数回答



同時期に開催された瀬戸内国際芸術祭と岡山芸術交流にも参加した方が多かった。

岡山芸術交流2022の開催状況

事業の趣旨・目的	岡山城・岡山後楽園周辺の歴史文化ゾーン内において国際現代アート展を岡山市等と開催し、アートを通じた岡山の魅力発信と地域文化の一翼を担う若手人材の育成を推進する。
事業概要	1 主催 岡山芸術交流実行委員会 会 長 大森雅夫（岡山市長） 副会長 横田有次（岡山県副知事）、松田久（岡山商工会議所会頭） 総合プロデューサー 石川康晴（公益財団法人石川文化振興財団理事長） 総合ディレクター 那須太郎（TARO NASU代表／ギャラリスト） アーティスティックディレクター リクリット・ティラヴァーニャ（アーティスト） パブリックプログラムディレクター 木ノ下智恵子（大阪大学21世紀懐徳堂准教授） 2 タイトル Do we dream under the same sky 僕らは同じ空のもと夢をみているのだろうか 3 会期 2022年9月30日（金）～11月27日（日） 開館日は計51日間 4 会場 旧内山下小学校、岡山県天神山文化プラザ、岡山市立オリエント美術館、 シネマ・クレール丸の内、林原美術館、岡山後楽園、岡山神社、石山公園 ほか 5 作品展示 13か国28組の作家が98作品（うち新作39作品）を展示 6 来場者数 177,659人 7 主なプログラム・イベント （1）学校連携 県内小中高等学校等 104校 7,255人の児童・生徒が校外学習や部活動等で来場した。 また、県内小中学校等7校でアート鑑賞を楽しむための出前授業を実施した。 （2）県立図書館に「岡山芸術交流」特設コーナーを設置 岡山芸術交流の会期中、県立図書館1階に「岡山芸術交流」の特設コーナーを設置し、参加アーティストの作品集や本展のカタログ、現代アートに関連する書籍などを掲示した。 （3）パブリックプログラム 「岡山芸術交流」が地域に開かれ、根ざし、持続・発展することを目的に、岡山内外の人、場所、文化資産の3つのポテンシャルを活かした様々な企画を実施した。 ① アーティストトーク アーティスティックディレクターであるリクリット・ティラヴァーニャをはじめとする9名のアーティストが一堂に会し、トークイベントを実施した。 ② クロージングイベント ゲストと各地の国際展・芸術祭の課題や可能性について語り合うためのトークイベントを開催した。 また、作品として整備した芝生に人文字を描くイベントを実施した。 ③ 子どもナビと楽しむアートツアー04 小学生がナビゲーター役となり、子どもたちの視点で岡山芸術交流の作品を大人にナビゲートするアートツアーを開催した。 ④ ジャーナルプロジェクト展示 学生グループが、岡山芸術交流を独自の視点で取材し、作成した壁新聞を表町商店街に掲示し、岡山芸術交流の魅力を発信した。

展示作品

①



②



③



④



①
Ryoji Ikeda, data.flux [LED version], 2021
Courtesy of the artist and TARO NASU
© 2022 Okayama Art Summit Executive committee
Photo: Yasushi Ichikawa

②
Haegue Yang, Sonic Cosmic Rope—Gold Dodecagon
Straight Weave, 2022
Courtesy of the artist and Kukje Gallery
With a general contribution from Kukje Gallery
Supported by Okayama Orient Museum
© 2022 Okayama Art Summit Executive committee
Photo: Yasushi Ichikawa

③
Precious Okoyomon, Touching My Lil Tail Till the Sun
Notices Me, 2022
Courtesy of the artist
Supported by rossogranada

④
Rirkrit Tiravanija, DO WE DREAM UNDER THE SAME
SKY, 2022

Courtesy of the artist and Tommy Simoens, GALLERY
SIDE 2

Special thanks to CHUBU Inc.

OVERCOAT, COME TOGETHER, 2022

Courtesy of oomura seisakusho 3 Inc.

Special thanks to The OR Foundation, Akiko Ichikawa

Gert Robijns, Reset Mobile(Sky), 2022

Courtesy of the artist and Tommy Simoens

© 2022 Okayama Art Summit Executive committee

学校連携

※鑑賞支援

希望のあった学校には対話による鑑賞や会場でのアテンド、ガイダンスを実施した。



パブリックプログラム



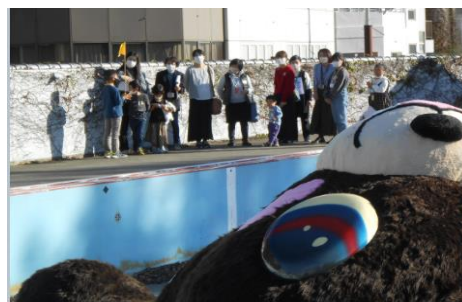
アーティストトーク(9/30)

登壇者：リクリット・ティラヴァーニヤ
他 8 名

司 会：木ノ下智恵子

場 所：岡山県立美術館 2 階
ホール(岡山市)

参加者：100名



子どもナビと楽しむアートツアー(11/6)

会場：旧内山下小学校
ツアー参加者：36名



クロージングイベント ラウンドテーブル(11/27)

登壇者：浅田彰、小崎哲哉、
片岡真実、那須太郎

司 会：木ノ下智恵子

場 所：蔭涼寺(岡山市)

参加者：50名



クロージングイベント「大集合！リクリットの 芝生に人文字をつくろう！」(11/26)

参加者：200名

事業の評価

自己評価	新型コロナ感染症長期化により、来場者数は対前回比の約 6 割の約18万人に留まった。 その一方で、今回注力した子どもの鑑賞機会の提供は、前回の76校、4,800人から104校、7,255人と大幅に拡大。 これからの未来を担う子どもたちに鑑賞の機会を提供できたことは一定の成果があった。	レベル
		3
今後の課題	実行委員会で実施する事業であり、現時点では次回開催は未定。	

おかやま A I R 地域協働事業

事業の趣旨・目的	地域住民が優れた芸術文化に身近に接する機会を提供するとともに、地域の魅力をアートの視点で掘り起こし、国内外へ発信することを目的とし、国内外のアーティスト(美術家、音楽家、舞踊家など)を招へいし、滞在制作を行う A I R (Artist In Residence) に併せて、地域との協働による取組を行うことで、地域にアートを取り入れ、多様な視点から岡山ならではの文化活動や創造活動などを促進する。
事業概要	1 笠岡諸島アートブリッジ2022「色と音のライブラリー」 (1) 実施団体 特定非営利活動法人ハートアートリンク (2) 鑑賞者数 613名 (3) 参加アーティスト(6名) 羽山まり子、岩本象一、江南泰佐、山端篤史、カタタチサト、三木優希 (4) 概要 アーティストが島に滞在し、島民等と島の植物を染料としたテキスタイル作品や、島の人々の思い出や声を集めたラジオ番組を制作し、それらを「色と音のライブラリー」と題し、白石島の松浦邸で展示した。 また、10月1日には、島民が着色した獅子頭を使用し、コンテンポラリーダンサーらが新しい形の獅子舞を披露するライブパフォーマンスを住吉港と松浦邸の2か所で開催した。その他にも染色ワークショップやアーティストトークを実施した。 会期：令和4年 9月23日～10月2日(作品展示) 10月 1日(獅子舞ライブパフォーマンス) ほか 会場：住吉港、白石島松浦邸 2 ザ・のみぎりズム2022 (1) 実施団体 一般財団法人矢掛町観光交流推進機構 (2) 鑑賞者数 4,523名 (3) 参加アーティスト(9名) 伊藤銀、大間光記、片岡幸夫、竹迫界斗、西川なつみ、巾崎知佳、平敷傑、松村晃泰、宮内宏 (4) 概要 古くからの石の産地である矢掛町において、若手からベテランまでの9名の彫刻家が約2週間滞在し、本陣通り沿いに設けた特設会場などで機械工具を使わない「ノミ切り」により石彫作品を仕上げ、その作品を本陣通り沿い各所に展示した。 地域住民や観光客は、様々な作品が徐々にできあがっていく光景を見たりアーティストと話をすることができ、アートをより身近に感じることもできた。 会期：令和4年8月27日～9月 8日(公開制作) 9月10日～9月30日(作品展示) 会場：西町特設会場、やかげ町家交流館、矢掛ビジターセンター問屋 ほか

笠岡諸島アートブリッジ2022「色と音のライブラリー」



ザ・のみぎりズム2022



《事業の評価》

自己評価	島に昔からある植物を使った染色や、町で産出される石を使用して彫刻作品を制作するなど、地域の魅力をアートの視点で掘り起こす取組ができた。また、地域住民にアートをより身近に感じていただける機会となった。	レベル
		3
今後の課題	より多くの事業提案が応募されるよう、事業募集の際の周知を一層図っていく。また、事業内容について、地域との協働がさらに図れるよう取り組む必要がある。	

次世代おかやまアーティスト活動促進事業

事業の趣旨・目的	次世代を担う芸術家を育成するとともに、県民に対して優れた芸術に触れる機会を提供し、県文化の底上げを図ることを目的として、岡山県にゆかりのある芸術家を起用した企画展や舞台などを実施し、活動の機会を創出する。また、併せて若手・新人の芸術家にも活動・発表の機会を提供し、創作活動を支援する。
事業概要	1 木村善明によるドイツ歌曲塾2022 (1) 実施団体 岡山県演奏家協会 (2) 鑑賞者数 228名 (3) 参加アーティスト(15名) 木村善明(バリトン歌手)、子安ゆかり(ピアニスト)、ほかレッスン生13名 (4) 概要 ドイツ歌曲の第一人者であるバリトン歌手・木村善明氏とリートピアニスト・子安ゆかり氏を講師に迎え、本県ゆかりの音楽家やピアニストが両者から直接学ぶ場を設け、その様子を一般公開する「公開レッスン」と、受講生がレッスンの成果を発表する「修了コンサート」から成るドイツ歌曲塾を開催した。 日時：令和4年7月30日、31日(公開レッスン) 8月1日(修了コンサート) 会場：ルネスホール 2 川埜龍三展「モノラルユートピア」 (1) 実施団体 EKG合同会社 (2) 鑑賞者数 1,050名 (3) 参加アーティスト(3名) 川埜龍三(美術家)、ベンジャミン・サスエタ・ロドリゲス(ガラス作家)、栗田妙子(ピアニスト/作曲家) (4) 概要 彫塑、彫刻、絵画、音楽など特定のジャンルにとらわれず意欲的な作品を制作し続けている笠岡市在住の美術家・川埜龍三氏による、およそ12年ぶりとなる県内美術施設での個展を開催した。また、ピアニストの栗田妙子氏をゲストに川埜氏のピアノコンサート&トークを開催した。 また、期間中、関連企画としてメキシコ出身で倉敷市在住のガラス作家・ベンジャミン・サスエタ・ロドリゲス氏による展示も実施した。 会期：令和4年7月30日～8月28日 7月31日(ピアノコンサート&トーク) 会場：ポートアート&デザイン津山 作州民芸館(ピアノコンサート&トーク)

木村善明によるドイツ歌曲塾



川埜龍三展「モノラルユートピア」



《事業の評価》

自己評価	ドイツ歌曲の第一人者による公開レッスンと修了コンサートを一連で実施する企画は画期的で、将来を担う若手レッスン生のみならず聴講者や関係者に高い評価を得た。 また、海外・県外での作品発表が多かった川埜龍三氏と県南で作品制作を行うロドリゲス氏による県北（津山市）での展覧会は、県南から多くの来館者が訪れるとともに、県北からもアートファンらが訪問し、厚い層の観客に恵まれ、多くの方に質の高いアートを鑑賞いただけた。	レベル
		3
今後の課題	より多くの事業提案が応募されるよう、事業募集の際の周知を一層図っていく。 また、次世代を担う芸術家の育成、県民に対して優れた芸術に触れる機会の提供が一層図られるよう事業内容を精査する。	

**文化芸術オーガナイザー育成・支援事業
「アートで地域づくり実践講座」の開催状況**

事業の趣旨・目的	地域の資源を活用し、地域のイメージアップとにぎわい創出につながる文化芸術イベントの企画やコーディネートができる人材を育成し、文化を核とした地域づくりを推進する。
フィールドワーク場所	瀬戸内市
事業概要	1 講師 浅井 克俊（ココホレジャパン（株）代表取締役） 江森 真矢子（（一社）まなびと代表理事） 山田 茂（画家） 2 講座受講申込者数 18名 3 講座修了者数 10名 4 講座の開催（6月4日～2月4日） 全12回＋実証イベント 企画の進め方や実際のアートイベントの運営、イベントの広報戦略、効果的な広報物の作成方法などを講座講師、外部講師から学ぶ座学講座に加え、地域の資源や歴史・文化を生かしながら、受講生自らが企画・準備から開催・運営までを実際に経験する文化イベント（実証イベント）を行った。 イベントの経験を活かすための振り返りを行い、実際にイベントの企画書の作成を行うこととしている。 5 実証イベントの開催（11月26日～27日） 地域資源を活用し、地元住民との協働により、受講生自らが企画・準備・開催・運営までを行う実証イベントを開催した。 ・イ ベ ン ト 名：きざしの気配～にじむ風とゆらぐ音を感じませんか？～ ・開 催 場 所：街角ミュゼ牛窓文化館（瀬戸内市牛窓町牛窓2835-1） ・プ ロ グ ラ ム 数：展示：にじむ風とゆらぐ音（滝沢 達史） 音楽：コンサート（曾我 大穂） 交流イベント：いどばた喫茶ぬくぬく ・概 要：「きざしの気配～にじむ風とゆらぐ音を感じませんか？～」をコンセプトに、不安に耐えながらじっと待つのではなく、一度「思考すること」をストップさせて、ありのままを感じてみてはどうかを表現する作品展示と音楽を提供するとともに、コンサートを実施するとともに、来場者にゆっくりと考えなおす時間と空間を提供。 ・来 場 者 数：約200人 6 講座修了生の活動促進 1月に、助成金獲得を目指した実践的な企画立案の講座を行い、活動の促進を図った。

講座(座学、グループワーク、フィールドワーク) 6月4日～2月4日 全12回



地域についての講義



講座での議論



地元住民の意見聴取



参加アーティストと受講生との協議

実証イベント 11月26日～27日



作品名「にじむ風とゆらぐ音」(滝沢 達史氏)



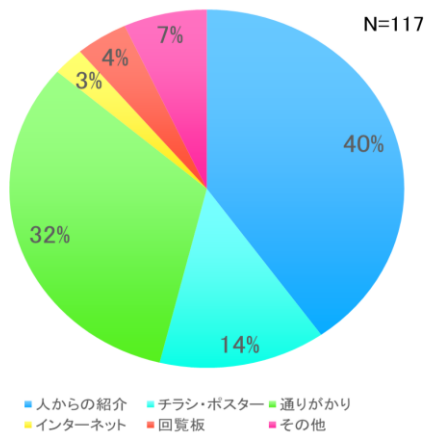
コンサート(曾我 大穂氏)



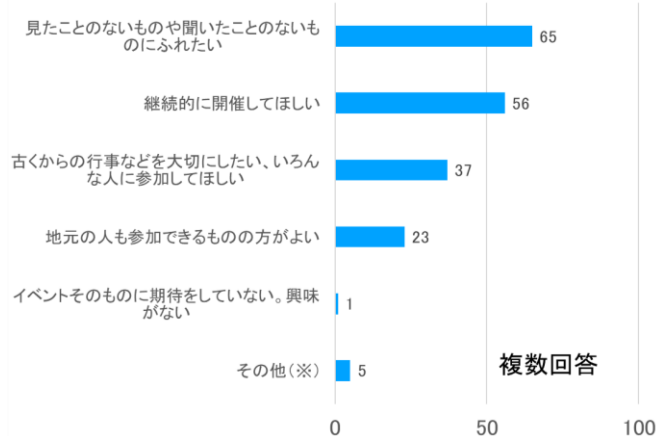
いどばた喫茶ぬくぬくの風景

実証イベント 来場者アンケート抜粋

Q: イベントをどこで知りましたか？



Q: 牛窓でアートイベントが行われることについて、どんな印象をお持ちですか？



Q: 今回のイベント参加者からの主な感想

- ・演奏と作品がマッチしていてよかったです。町の人がたくさん来られていて、アートと人の関わりを感じた。
- ・音がとてもよかったです。響きました。空間の作りと音が光がとてもマッチしていました。
- ・落ち着く雰囲気牛窓とマッチしていてリラックスできました。
- ・展示室で異空間を体験できた。天井にもう少し鮮やかな影が映ればもっと良いと思った。
- ・牛窓で体験した事のないイベントで楽しかったです
- ・アットホームな中にも歴史を感じられたイベントだと思います。
- ・場所の住所が入っていると良いかもしれません。すぐ迷いました。光がよい感じでした。

事業の評価

自己評価	アートイベント等に関心の高い県民を対象とする講座を実施し、人材の育成に取り組めた。 また、地元町内会の回覧板での告知や、各戸訪問等の実施等により、当初目標としていた地域住民の多くが当該イベントに参加いただけ、地域住民とスタッフの交流の機会が得られた。	レベル
		3
今後の課題	講座修了後のサポート体制をより充実させることで、アートの力を活用した地域づくりを行うことのできる人材をさらに増加させていく必要がある。	

オーケストラの鑑賞機会の提供

事業の趣旨・目的	日頃、本格的なオーケストラ演奏を聴く機会が少ない地域において、質の高い芸術鑑賞の機会を県民に提供することで、音楽の楽しみを通じて明るい希望をもたらし地域の活性化を図ることを目的に、県下唯一のプロオーケストラ「岡山フィルハーモニック管弦楽団」による特別公演を開催する。
事業概要	【令和4年度実績】 ○新見特別公演 日 時：令和4年11月6日（日）14時開演 場 所：新見文化交流館（まなび広場にいみ）新見市新見 出 演：指揮／佐々木 新平 ヴァイオリン／戸澤 采紀 曲 目：モーツァルト／歌劇「劇場支配人」序曲K.486 メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲ホ短調作品64 メンデルスゾーン／交響曲第4番イ長調「イタリア」作品90 入 場 料：一般 2,000円、ユース（19歳以下） 1,000円 入場者数：400名  

事業の評価

自己評価	アンケート結果から、来場者の約7割が地元新見市及び高梁市や真庭市などの近隣エリアからであった。また、年代も10代から70代以上と幅広い世代の人達が鑑賞するなど、普段オーケストラの演奏を聴く機会の少ない地域で多くの人達に、鑑賞の機会を提供することができた。 来場者からは、次回開催を望む声も多く寄せられており、今後も、地方での開催を通じて、より多くの人達に芸術鑑賞の場を提供してまいりたい。	レベル
		4
今後の課題	より多くの集客を図るため、開催地の自治体と連携し、集客に向けた広報等の取組を強化していく必要がある。	

おかやま文化芸術アソシエイツ事業

事業の趣旨・目標	公益社団法人岡山県文化連盟に「おかやま文化芸術アソシエイツ」を設置し、文化芸術に関する相談支援、情報発信、人材育成などに継続的に取り組むことにより、芸術家や文化団体等による文化活動の促進を図る。								
事業概要	1 専門人材の配置 【プログラム・コーディネーター 1名】 ・大月ヒロ子/ミュージアム・エデュケーション・プランナー 【プログラム・オフィサー 1名（兼務）】 ・高田佳奈/公益社団法人岡山県文化連盟主任、認定ファンドレイザー 【アドバイザー 4名】 <table border="0"> <tr> <td>アドバイザー（非常勤）</td><td>杉浦幹男（アーツカウンシル新潟プログラム・ディレクター）</td></tr> <tr> <td>アドバイザー（非常勤）</td><td>朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）</td></tr> <tr> <td>アドバイザー（非常勤）</td><td>斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）</td></tr> <tr> <td>アドバイザー（非常勤）</td><td>森山知己（日本画家、倉芸術科学大学副学長）</td></tr> </table> 【サポート・チーム】 ・WEB、システム担当 株式会社LogooDesign ・記録・アーカイブ担当 一般社団法人ノマドプロダクション ・映像、編集担当 ざっばうさぎ 2 主な事業・実績 (1) ポータルサイト「マイニングおかやま」 ・県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース「文化・芸術・芸事名鑑」の充実に努めた。登録数184件（令和4年12月現在） ・岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム「マイニングおかやま」を活用し、おかやま文化芸術活動相談窓口へ寄せられた相談の中から、公益性が高く文化芸術の社会的価値を具現化するに相応しい事業をモデル事業として採択し助成した。助成件数3件（令和4年12月現在） (2) 文化団体等の活動支援 文化団体等の活動に対する助言、支援を行った。 ・文化団体等からの相談件数・・・・・・69件 （令和4年4月1日～令和4年12月31日現在） ・文化芸術等に関するワンストップ相談窓口「おかやま文化芸術活動相談窓口」の開設 (3) 県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業 ・おかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」 地域の文化芸術資源を活用し、新たな価値の再発見と楽しみ方を提案する「これがOKAYAMA!プログラム」について、大月ヒロ子氏の企画・監修のもと、テーマを「美作国 食は文化の交差点」と設定し、文化芸術アソシエイツが運営・実施した。 ・「文化芸術交流実験室」(トークセッション&ワークショップ) 文化の各分野はもとより、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流を通じて文化資源を掘り起こすとともに、県内の人材や文化資源の横断的な出会いの場を創出する「文化交流実験室」を開催した。（一部を県民文化祭のプログラムとして実施） ・公式YouTubeチャンネルーおかやまカルチャー・ヴィ 「楽しいが見える！」をコンセプトに、文化連盟会員が作成する様々な動画コンテンツや、県内で文化芸術活動を行う方が自ずから撮影した動画を配信する場として、YouTube公式チャンネルをオープンした。	アドバイザー（非常勤）	杉浦幹男（アーツカウンシル新潟プログラム・ディレクター）	アドバイザー（非常勤）	朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）	アドバイザー（非常勤）	斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）	アドバイザー（非常勤）	森山知己（日本画家、倉芸術科学大学副学長）
アドバイザー（非常勤）	杉浦幹男（アーツカウンシル新潟プログラム・ディレクター）								
アドバイザー（非常勤）	朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）								
アドバイザー（非常勤）	斎藤 努（舞台制作者、プロデューサー）								
アドバイザー（非常勤）	森山知己（日本画家、倉芸術科学大学副学長）								

(4) 文化活動に係る研究会、勉強会等

・「アートマネジメント研修」

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの人数が参集することが困難な状況であったことから、好きなどころから参加できるオンライン研修を開催した。

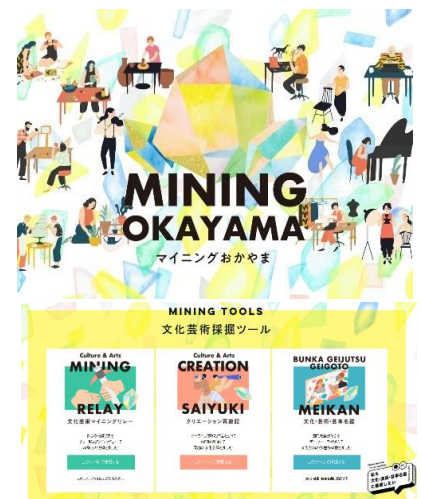
これまでは、地域文化に関する専門職を養成することを念頭に、文化・芸術団体を中から支える職員の育成と意識向上を目的に行っていたが、今回は誰もが、文化的視点で問題解決につなげられる内容とした。(一部を県民文化祭のプログラムとして実施)

ポータルサイト「マイニングおかやま」

県内に主な活動拠点を置く文化芸術に関わる人材が、地域の貴重な文化資源と認知され、コロナ禍においても活動の場を得ることができるよう、芸術家等やその活動を県民に広く紹介するポータルサイト「マイニングおかやま」を開設した。

(主なコンテンツ)

コンテンツメニュー	内 容
文化芸術 マイニングリレー	岡山県ゆかりの文化芸術関係者を、リレー形式のインタビューで紹介
クリエイション サイユウキ 再遊記	県内アーティストを中心とした作品展等のアーカイブ集
文化・芸術・ ゲイコト 芸事名鑑	県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース



(モデル事業)

- ・視覚障害者の支援団体が行う文化体験事業
(川柳・備前焼)の講師紹介
- ・記念碑モニュメントの作者紹介
- ・イベントグッズのイラストデザイン作者紹介
- ・児童養護施設へのアート講師派遣
- ・公民館でのぬりえ教室講師紹介

おかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!」プログラム

「美作国 食は文化の交差点」をテーマに、楽しく学べる様々なプログラム、学びを生み出す「場」やそれを支える「人」などをリーフレットにまとめて紹介するとともに、県文祭ならではの特別ワークショップを企画実施した。

美作国 食は文化の交差点

- ・特別ワークショップ 6プログラム

「藍を食べるワークショップ 藍に満ちる1日@美咲町」(9/13)、

「津山名産『初雪』を武田待喜堂さんと火鉢で焼こう!」(11/6) など

- ・総プログラム数 18

【美作国 食は文化の交差点 リーフレット】

A5サイズ 15,000部、A4サイズ 200部



特別対談

10/14「食は文化の交差点」

登壇者:大原謙一郎(公益財団法人大原美術館名誉館長)

大月ヒロ子(おかやま文化芸術アソシエイツ

プログラム・コーディネーター)



文化芸術交流実験室

(講師敬称略)

平成29年度～令和3年度で36回の実験室を開催し、県内各地で様々な分野を横断する交流を通じて、新たな文化資源を発掘してきた。

令和4年度は、一部のプログラムをおかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」として実施し、県民総参加の文化の祭典に新たな風を吹き込み、生き活きと心豊かに暮らすヒントを提供した。



実験室37

YouTube配信コンテンツ

訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場⑤

「自然との共生から生まれるガラスの立体造形」

講師：磯谷晴弘(ガラス作家、倉敷芸術科学大学教授)

素材：ガラス造形作品の制作工程



実験室38

9/23 「これからの美術館を目指す学びの姿」

講師：一條彰子(独立行政法人国立美術館学芸担当課長)

柳沢秀行(公益財団法人大原美術館学芸統括)

場所：黒住教宝物館「まることセンター」

参加者：18名



実験室39

10/10 「私設ミュージアムの心意気」

講師：小泉成史

(ジャーナリスト、金沢工業大学客員教授)

森本信一(つやま自然のふしぎ館館長)

場所：つやま自然のふしぎ館

参加者：11名



実験室40

11/9 「建築探偵団其の六『津山の建築を写真で切り取る』」

講師：石田尚昭(一級建築士)

江見正暢(江見写真館代表取締役)

場所：江見写真館、津山市城西地区周辺

参加者：16名

公式YouTubeチャンネル—おかやまカルチャー・ヴィ



現在までに48本の動画を公開し、県内の様々な文化芸術活動の様子を伝えている。配信は不定期だが、文化芸術交流実験室も一部配信で実施するなど、おかやまの文化芸術の“楽しい”を紹介するとともに、デジタルアーカイブの役割も担う。



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.5 「自然と...

220 回視聴・3 か月前



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.4 「多彩な...

1017 回視聴・7 か月前



訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.3 「自然を...

168 回視聴・1 年前

10/28 オンライン併用によるアートマネジメント研修⑤ 「アメリカから日本へ 岡山へ 世界へ」

講師：ホルツヒューター・カイル

(生物資源科学博士、一級左官技能士、パーマカルチャーセンター上級代表)

内容：久米南町上郷地区で、自然と人間が共存して暮らす里山の循環を守るために、自然建築の技術や耕さない米作り、草木染め、農薬を使わない野菜作りなど、自然とともに生きる学びを実践できるパーマカルチャーセンター上郷（通称パミモミ）。国内外から多くの人々が訪れるインターナショナルな場所を運営するカイルさんの具体的な実践から学ぶ。

【今後の開催予定】

3月予定 オンライン併用によるアートマネジメント研修⑥ 「未定」

講師：上田假奈代（詩人、NPO法人こえとことばとこころの部屋（ココルーム）主宰）

内容：詩人でありながら大阪市西成区の北東部、通称・釜ヶ崎でアートNPO法人こえとことばとこころの部屋（ココルーム）を主宰する上田假奈代さん。

「であいと表現の場」「社会実験としてのアート」などをキーワードに、「釜ヶ崎芸術大学」など、地元の労働者や生活保護受給者、支援者、障がいをもつ人、若者、旅人、研究者、そしてアーティストが縦横無尽にクロスオーバーする表現活動を

その他

1)各種助成金、補助金の審査、選考

- ・おかやま県民文化祭共催事業文化パワーアップアクション助成の選考
- ・県が実施する「AIR地域協働事業」及び「次世代アーティスト活動促進事業」の選考
- ・公益財団法人福武教育文化振興財団の「教育文化活動助成」の審査
- ・公益財団法人真庭エスパス文化振興財団の「エスパス芸術文化助成」（真庭市）の審査

2)講師、講演等

- ・「アートで地域づくり実践講座」（県事業）のテキスト作成と講義
- ・公益社団法人全国公立文化施設協会研究大会パネリスト（山形市）
- ・公益社団法人全国公立文化施設協会北海道支部アートマネジメント研修講師（北見市）

3)全国アーツカウンシル・ネットワークミーティング

- ・令和4年度から2年間幹事団体
- ・第1回 8/1（月）@横浜市 多文化共生に関するシンポジウムにパネリスト登壇
- ・第2回 10/14（金）、15（土）@岡山市
県民文化祭の特別対談を公開。エクスカッションとして瀬戸内国際芸術祭を視察
- ・第3回 12/9（金）、10（土）@名古屋市 企業連携について事例発表

事業の評価

自己評価	昨年度開設したポータルサイト「マイニングおかやま」の内容を充実させることができた。 文化団体等からの相談に積極的に応じ、文化団体等の活動支援に努めた。 「おかやま県民文化祭」や「文化芸術交流実験室」を開催した。	レベル
		3
今後の課題	ポータルサイトはまだ認知度が高くないことから、引き続き、市町村や文化団体に周知を図っていく必要がある。	

県立美術館事業

県民の幅広い文化活動の発展に寄与するため、岡山ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示するとともに、県内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会をはじめ、美術館講座や教育普及など、当館の機能を最大限に活用した事業を展開している。

また、一昨年来のコロナ禍に伴い、美術館活動もその時々感染状況に応じた制限や対応が求められる中、当館を県民や観光客が気軽に訪れ、安心してさまざまな美術体験ができるよう、積極的な広報活動やきめ細かなサービスの提供を行うとともに、若い世代やこれまで足を運んだことのない人々に来館を促す事業にも取り組んでいる。

1 展覧会事業

《事業の趣旨・目的》

岡山ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示するとともに、県内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会を開催し、県民に美術を中心とした国内外の優れた芸術文化に触れる機会を提供する。

《概要》

「岡山の美術展」（常設展示）では当館のコレクションを活用した展示等で、県民の誇るべき財産であることを発信するとともに、「特別展」（企画展示）では、古代から現代に至るさまざまな時代や地域の多様なジャンルにおける特色のある優れた作家や作品を紹介する。

本年度は、基本的な感染症対策を継続しつつ、国や県の対応方針に準じ、少しずつコロナ禍以前の活動に戻しながら、展覧会事業を実施している。

令和4年度 岡山の美術展（常設展示）

展覧会名	期 間	入館者数（人）
第1期 特別展示「第11回 I 氏賞受賞作家展」	R4 4/22～ 5/29	7,080
特別展示「山口松太追悼展」	〃	
特集「安井家コレクション」	〃	
第2期 特別展示「撮影された岡山の人と風景」	6/ 3～ 7/10	1,886
第3期 特集「佐藤一章」	7/16～ 8/28	4,424
特集「大原コレクション」	〃	
第4期	9/ 7～10/ 2	1,968
第5期 特別展示「竹内清展」	10/ 4～11/ 6	2,853
第6期 特別展示「第12回 I 氏賞受賞作家展」	11/12～12/25	3,783
特別展示「もっと伝統工芸」	〃	
計		21,994

令和4年度 特別展（企画展示）

展覧会名	期 間	入館者数（人）
The ドラえもん展	4/ 2～ 5/22	56,233
高木聖鶴展	6/ 3～ 7/ 3	6,626
かこさとしの世界展	7/23～ 8/28	25,165
第73回岡山県美術展覧会	9/ 7～ 9/18	5,046
佐賀県立美術館優品選	9/28～11/ 6	2,676
第69回日本伝統工芸展岡山展	11/17～12/ 4	5,344
名古屋市美エコール・ド・パリとメキシコ・ルネサンス展	2/ 3～ 3/12	
和田誠展	3/24～ 5/ 7	
計		101,090

<参考>令和5年度 特別展（企画展示）

展覧会名（仮称）	期 間
和田誠展	3/24～ 5/ 7
開館35周年記念コレクション優品展	5/19～ 7/ 2
三の丸尚蔵館展	7/15～ 8/27
第74回岡山県美術展覧会	9/ 7～ 9/18
ウィルアムモリス展	9/29～11/ 5
第70回日本伝統工芸展岡山展	11/16～12/ 3
巡回企画展	12/15～ 2/18
走泥社展	2/27～ 4/ 7

《事業の評価》

自己評価	ドラえもん展の入館者が多かったこともあるが、昨年度の入館者数10万7千人を上回る見込であり、コロナ下においても作品を直接鑑賞できる場として美術館の役割を果たせたと考えているが、入館者が非常に少ない展覧会もあった。	レベル
		3
今後の課題	新型コロナの感染拡大により美術館や博物館から遠ざかった利用者をどのように呼び戻していくか、今後、工夫が求められる。	

2 教育普及事業等

《事業の趣旨・目的》

社会教育施設として、社会や県民と美術館の接点を形成する活動を行い、「一人ひとりが文化的で豊かであること」を目指す。

《概要》

○ こんにちは美術館事業

「展示室に誘い、作品や美術に対する理解を深める」「美術館の機能や役割に対する理解を促す」等を主な目的として実施しており、“つくる（制作）”に関わる活動や、“みる（鑑賞）”に関わる活動を中心に、美術や美術館に親しむことができる企画立案に努めた。

・ ワークショップの開催

美術館に親しみ、作品や美術に対する理解を深めることができるよう、制作に関わる活動や体験的に作品を鑑賞する企画など、参加体験型のワークショップを中心に開催した。

- ・ 特別展関連事業WS（すうじのつぶやき からすになる 他）
- ・ 岡山の美術展 観察日記 等

○ 学校と美術館の連携

小中高等学校の教育活動（図画工作・美術・総合的な学習の時間・校外学習・職場体験学習等）や大学の授業、また教職員の研修（教科別研修・初任者研修等）の場として、美術館を活用していただき、出前授業、出前研修などにも取り組んだ。

- ・ 学校団体観覧（美術館学習）等の受入れ
- ・ みんなの参観日「図工の時間・美術の時間ー子どもの学びー」

図工や美術の時間の子どもの学びの姿を美術館に展示するとともに、多くの人が参観できる場を提供した。前期(12月)と後期(1月)の2回開催。 等

《事業の評価》

自己評価	展覧会関連講座や子供向けのワークショップなどは人気が高く、美術への理解を深めるとともに美術館に親しんでもらえたと考えている。	レベル
		3
今後の課題	教育普及事業は幅広く展開することは今後も重要と考えるが、一方で職員のマンパワーには限界があり、取捨選択が求められる。	

3 県立美術館魅力アップ事業

《事業の趣旨・目的》

県民・観光客への広報の充実、若い世代への来館を促進する取組により、美術館が有する多岐多様な魅力を積極的に発信する。

《概要》

○ 「岡山の美術展」（常設展）活性化事業

- ・ 所蔵作品に加え、借用作品を展示し、充実した内容で集客アップを図った
特別展示「山口松太追悼展」・「竹内清展」・「もっと伝統工芸」
- ・ 岡山の美術展や県立美術館そのものに興味と関心をもってもらうための事業として「かこさとしの世界展」の会期中に、県内で活動するデザイナー「WARISASHI」の協力により《すうじのつぶやき part2》を当館のコインロッカーや傘立てのナンバープレートに展開し、8月～10月には高校生や若手音楽家等の協力を仰ぎ、「Drawing Melodies～響き合う表現～」を開催、また、クリスマスイブや成人の日にもホールや中庭、屋内広場を使つてのパフォーマンス等を実施した。

○ 美術館の魅力発信

平成 30 年度から配置している「魅力発信スタッフ」により、県立美術館で実施する岡山の美術展・特別展などの情報を SNS 等を活用して発信した。

○ 美術館利便性向上

これまで美術館を訪ねることを躊躇していた人にも美術館を楽しんでもらえるよう、授乳室を増室（1→2）し利便性の向上に努め、かこさとしの世界展では「託児サービスの日」を実施した。（「手話付きフロアレクチャーの日」はコロナ禍で令和 4 年度は休止している。）

○ 夜間開館

仕事や学校の帰りに美術館でひとときを過ごしたいという方を対象として、毎月最終土曜日に夜間開館を実施した。

○ ボランティア活動（ボランティア 約 110 名）

多くの県民から親しまれる美術館を目指し、県民と美術館との橋渡しの役割と、美術館活動の円滑な運営をサポートしていただくため、開館当初からボランティア制度を導入している。また、そのためにボランティア研修会も実施している。

主な活動としては、来館者に対する館内の案内、誘導や、展覧会の案内状の発送作業に携わっていただいている。

○ 主な刊行物

美術館の活動や、展覧会のスケジュールを PR するため、以下の刊行物を発行した。

- ・美術館年報
- ・展覧会図録
- ・美術館ニュース（年 4 回）
- ・岡山県立美術館紀要
- ・展覧会案内リーフレット

《事業の評価》

自己評価	美術館に親しんでもらうための展覧会関連イベントやギャラリーコンサートなどを行ったが参加者も多く、事後アンケートでも高評価をいただいております一定の成果は上がったと考えている。	レベル
		3
今後の課題	引き続き美術館に親しんでもらうことや利便性の向上を図るとともに、各種の取り組みを県民に知ってもらうことが必要である。	

4 岡山県新進美術家育成「I氏賞」事業（事務局：県立美術館）

《事業の趣旨・目的》

岡山県にゆかりのある新進美術家を育成するため、絵画、彫刻等の創作活動に優れた資質を示し、将来が期待される若手美術家に「I氏賞」を授与するとともに、受賞作家展の開催等により創作活動を支援する。

《概要》

- 岡山県にゆかりのある若手芸術家を表彰、支援する「I氏賞」を選考し、贈呈する事業を平成19年度から実施している。（大賞1名、奨励賞2名以内）

令和3年度まで、毎年度賞の選考を実施してきたが、運営方法の見直しを行い、事業年を1年から2年に変更し、1年目に賞の選考や贈呈式、2年目に受賞作家展を実施することとした。

今年度は、昨年度延期した第十一回I氏賞受賞作家展（第11回・第12回大賞受賞者（2人））を4月に、第十二回展（第11回・第12回奨励賞受賞者（4人））を11月に実施した。

《事業の評価》

自己評価	実施した2回の受賞作家展は、作家の受賞後の研鑽の成果が発揮され、充実した展覧会とすることができた。入館者へのアンケートでは、いずれも非常に好評であった。	レベル
		3
今後の課題	運営方法見直し後の賞の選考がスムーズに実施され、かつ、一定の水準を確保できるよう、関係者への周知などに配慮しながら進める必要がある。	

5 特記事項

○ 新型コロナウイルス感染防止対策

「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」（公益財団法人日本博物館協会）等を踏まえ、感染防止策を徹底し、来館者の皆様に優れた文化芸術に触れていただく機会を提供するよう努めた。

【スタッフ対策】

入館時にアルコール手指消毒及び非接触式体温計による検温を実施。その後、朝礼時に体調を確認している。

展示室では、マスク、白手袋を着用し、“もぎり”やチケット売り場等にはアクリルボードを設置し、金銭等はトレーでやりとりするなど、ソーシャルディスタンスをしっかりと確保した接客に留意するとともに、体調が悪そうなお客様を見かけた場合は積極的な声かけを行っている。

【施設内の対策】

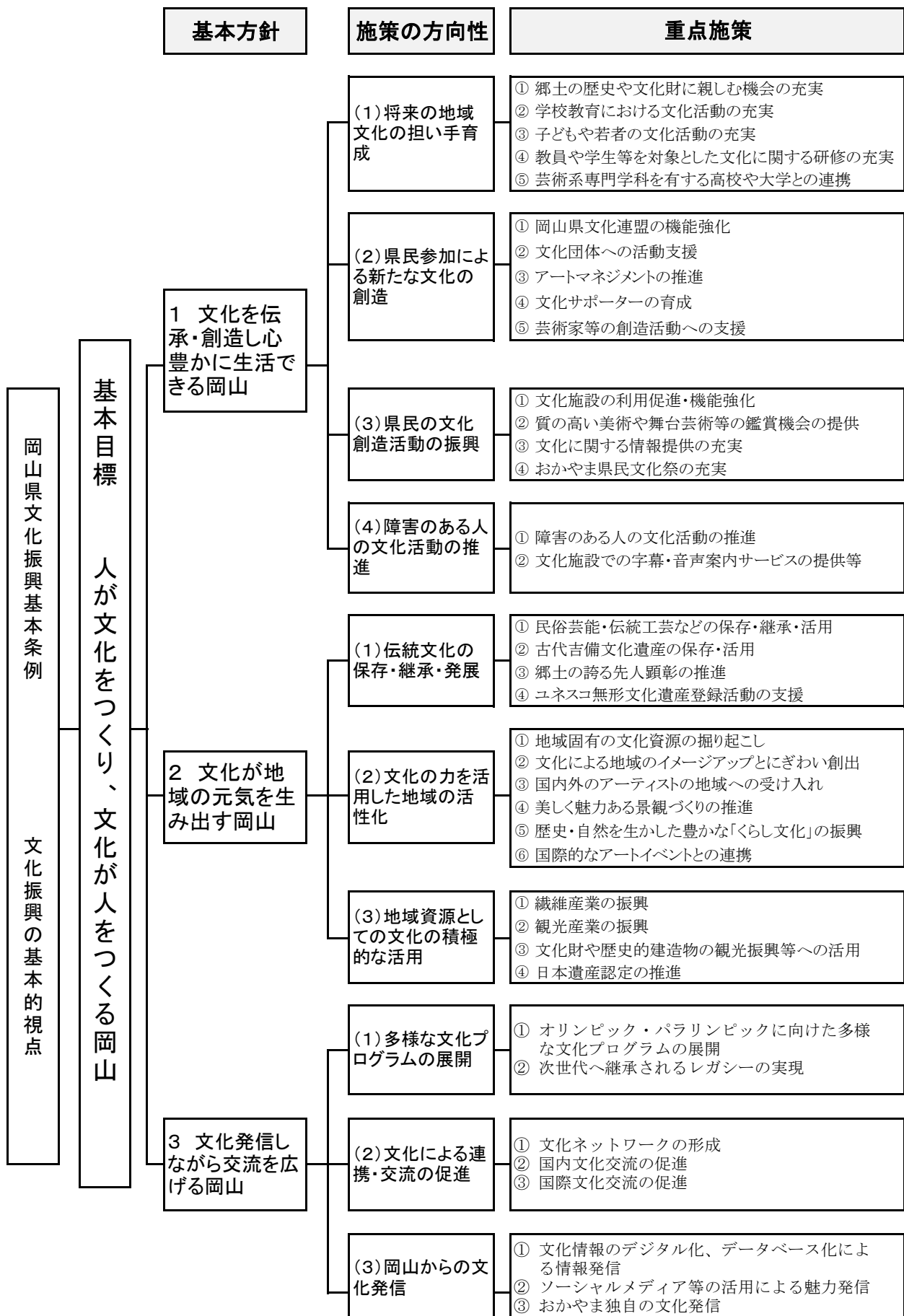
玄関にアルコール手指消毒器、非接触式体温計の設置。受付窓口等にアクリルボードの設置。常時、空調機による外気の機械式換気、接触感染の可能性のある部分（手すり、ドアノブ等）及び飛沫感染の可能性のある部分（アクリルボード

等)の定期的かつ頻繁な消毒を実施。ソーシャルディスタンス確保のため、床面に足形プリントシールを貼り、混雑が予想されるエリアではベルトパーティションによる整列・分離を行っている。

【来館者へのお願い】

上記の内容をHPや館内案内で掲示している。

おかやま文化振興ビジョン(2018-2027) 体系図



おかやま文化振興ビジョン(2018-2027)における成果指標の実績

※H29策定時数値について

・指標名に《累計》と表記がないものは原則として、
H24(2012)～H28(2016)年度の平均値を使用

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
文化施設利用者数	483,612人	530,000人	267,800人	298,145人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数				

(1)将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
おかやまの文化財キッズ ページ年間アクセス数	854件 (H28)	1,800件 (R2)	6,515件	2,354件
(説明)おかやまの文化財キッズページ年間アクセス数				
学校行事で県立美術館を訪 れた人数	3,661人	4,800人	1,661人	1,421人
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数				
子どもみらい塾講師派遣回 数	406回	530回	196回	279回
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数				
優れた芸術を鑑賞した学校 数《累計》	668校 (～H28)	1,300校 (～R4)	1,294校 (～R3)	1,433校 (～R4.12)
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計				
アウトリーチ活動実施回数	39回	43回	17回	14回
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数				

(2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数 《累計》	—	400件 (～R4)	537件 (～R3)	606件 (～R4.12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数の累計				
文化関係各種助成金の採択件数	31件	40件	25件	33件
(説明)日本芸術文化振興会、地域創造、エネルギー文化・スポーツ財団等の団体が募集した助成金事業に採択された件数				
県が実施するアートマネジメント講座修了者数 《累計》	69人 (～H28)	200人 (～R4)	127人 (～R3)	137人 (～R4.12)
(説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				
県立美術館ボランティア数	89人	100人	93人	111人
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数				
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	3,300点	2,282点	2,254点
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数				

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
文化施設利用者数	483,612人	506,000人	267,800人	298,145人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数				
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.2% (H28調査)	38.0% (R2)	26.2%	28.2%
(説明)県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合				
「岡山文化情報」ホームページアクセス数	25,697件	34,000件	7,409件	0件
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数 ※HPは改修のため休止中				
県民文化祭参加者数	370,978人	408,000人	141,246人	146,802人
(説明)おかやま県民文化祭への総参加者数				

(4)障害のある人の文化活動の推進

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
障害のある人のアート展への応募点数	—	250点	302点	76点
(説明)岡山県主催の障害者アート展への応募点数				
beyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数《累計》	—	1,100件 (～R2)	837件 (～R3)	837件 (～R4.12)
(説明)岡山県が認定するbeyond2020プログラムのうち障害のある人にとってのバリアを取り除く取組を含むプログラムの認定件数の累計				

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数《累計》	69人 (～H28)	500人 (～R9)	519人 (～R3)	576人 (～R4.12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				

(1)伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
日本伝統工芸展への応募点数	116点	120点	57点	63点
(説明)日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数				
登録文化財の登録件数	275件	310件	343件	346件
(説明)登録文化財の登録件数				
犬養木堂記念館及び岡崎嘉平太記念館利用者数	25,772人	29,000人	19,056人	23,941人
(説明)犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館の利用者数				

(2)文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数《累計》	—	2,000件 (～R2)	1,246件 (～R3)	1,246件 (～R4.12)
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベント件数の累計				
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	130団体	242団体	458団体
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数				
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加アーティスト数	20人	25人	11人	15人
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加アーティスト数				
地域の景観づくりに主体的に取り組む景観行政団体(市町村)数	8団体	10団体	9団体	9団体
(説明)景観計画の策定等、地域独自の景観形成施策を実施する景観行政団体(市町村)数				
外国人旅行者宿泊者数	133,082人	300,000人 (R2)	9,753人	2月公表予定 (第3四半期分)
(説明)県が調査している外国人旅行者宿泊者数				

(3)地域資源としての文化の積極的な活用

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
観光入込客数	1,433万人	1,500万人 (R2)	1,099万人	7月公表予定
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数				
後樂園の入園者数	744,039人	900,000人 (R2)	267,801人	483,640人
(説明)後樂園の入園者数				

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 9 年度 (2027)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件 (H28実績)	432,000件	816,717人	702,041人
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数				

(1) 多様な文化プログラムの展開

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの件数【再掲】《累計》	—	2,000件 (～R2)	1,246件 (～R3)	1,246件 (～R4.12)
(説明)東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムとして、国、県等が認定する文化イベント件数の累計				

(2) 文化による連携・交流の促進

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数《累計》	—	1,500人 (～R4)	959人 (～R3)	1,004人 (～R4.12)
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数の累計				
国民文化祭への派遣団体数	8団体	10団体	6団体	3団体
(説明)国民文化祭への派遣団体数				
県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業参加外国人アーティスト数	5人	7人	5人	0人
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業への参加外国人アーティスト数				

(3) 岡山からの文化発信

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	目標値 R 4 年度 (2022)	実績値 R 3 年度 (2021)	直近の実績値 R 4 年12月末 (2022)
「岡山文化情報」ホームページアクセス数【再掲】	25,697件	34,000件	7,409件	0件
(説明)県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」へのアクセス数 ※HPは改修のため休止中				
県立美術館フェイスブック”いいね”の数《累計》	—	1,900件 (～R4)	1,986件 (～R3)	2,027件 (～R4.12)
(説明)県立美術館フェイスブック”いいね”の数の累計				

重点事業調書

担当部局・課名		環境文化部文化振興課			
重点事業の名称		文化を核とした地域活性化促進事業			
第3次 生き生き プラン	重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造			
	戦略の目録	8 生きがい・元気づくり支援プログラム			
	施策	1 重点 文化とスポーツの力を活用した地域の活性化、6 推進 文化創造活動の振興			
第2期 創生 戦略	基本目標	4 地域の活力を維持する			
	対策	4 地域の持続的発展のための活力の維持			
	政策パッケージ	4-② 地域社会の活性化			
終期設定(年度)	R6	予算区分	一般	事項名	芸術文化活動費
現状 課題 必要性	【現状】 2021年度県民意識調査の結果、「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域」についての満足度が26.2%となり、前年度と比較して1.8ポイント下回った。 - アートの力を活用した地域づくりを行い、地域のイメージアップと賑わい創出を図るためには、地域文化を担う人材として、岡山の芸術文化や地域資源を生かしアートイベントの企画・運営を行うことのできるアートマネジメント人材の育成が求められているところである。 - 県と県文化連盟が同連盟内へ設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、文化活動に関する相談支援や各種研修会等の成果により、本県の文化芸術の総合窓口として定着しており、その重要度が増している。 【課題】 - 本県文化を創造し、継承・発展させていくために、地域の文化資源を生かした創作活動の促進や次世代の芸術家及び地域文化の担い手の育成のための継続的な取組が不可欠な状況であるが、講座修了生が地域でアートを活用した自主企画イベント実施するには、「地域住民の共感を得るのが難しい」「資金調達が難しい」などの様々なハードルがある。 - 都市部に比べ、それ以外の地域では文化事業の開催が少なく、県下どの地域の県民にも等しく、文化・芸術の鑑賞機会が提供されているとは言えない状況である。 【必要性】 - 次世代を担う若手芸術家が活躍できる場を文化団体等と連携して提供することにより本県文化の底上げを図る必要がある。 - アートの力を活用した地域づくりを行い、地域のイメージアップと賑わい創出を図るためには、アートイベント等に関心の高い県民を対象とする講座を実施し、人材の育成に取り組むとともに、地域でのアートイベント実施を躊躇している人材の後押しにもつながる集中的な支援を行うことで、アートの力を活用した地域づくりを行うことのできる多くの人材を定着させていく必要がある。 - 県下どの地域にも等しく、文化・芸術の鑑賞機会を提供するため、様々なエリアで文化事業を実施する必要がある。 「おかやま文化芸術アソシエイツ」のマネジメント機能を活用し、県だけでは実施不可能な文化団体等の活動支援やネットワークづくり、文化芸術に関する人材育成などを継続的に発展させることにより、本県文化の底上げを図る必要がある。				
	1 アートプロジェクトおかやま推進事業《15,938千円》 (1) おかやまAIR地域協働事業《4,000千円》 国内外の芸術家を招へいし、滞在制作を行うAIR(Artist In Residence)に、地域との協働による取組も併せて行うことで、地域にアートを取り入れ、多様な視点から岡山ならではの文化活動や創造活動などを促進する。 - 県内の文化団体、観光協会、地域振興団体などに委託して実施。(プロポーザル方式で事業者を選定) 1事業あたり2,000千円×2団体 (2) 次世代おかやまアーティスト活動促進事業《2,000千円》 県文化の底上げを図るため、本県ゆかりの若手芸術家を起用した企画展や舞台などを実施し、若手芸術家の活動の機会を創出するとともに、ワークショップ等を実施し、県民が文化に触れ、活動できる場を提供する。 - 美術館等文化施設を管理する文化団体などに委託して実施。(プロポーザル方式で事業者を選定) 1事業あたり1,000千円×2団体				

	(3) 新規アートマネジメント人材育成・地域定着支援事業 《5,365 千円》 アートイベントに必要な企画力や広報技術等を習得できる通年の講座を開講し、岡山の芸術文化や地域資源を生かしアートイベントの企画・運営を行うことのできるアートマネジメント人材の育成を行うとともに、講座修了後の修了生への支援体制も合わせて構築することで、育成した人材が地域で定着し、岡山の文化芸術と地域資源を生かしたイベントに自発的に取り組める環境を整備する。 ・実施主体 アートで地域づくり実践講座実行委員会、県 ・アートイベント等の企画・運営に関心の高い県民が対象。受講者数は20 人程度を予定						
	(4) 身近にオーケストラ！鑑賞事業 《4,573 千円》 オーケストラの演奏を聴く機会が少ない地域において岡山フィルハーモニック管弦楽団によるフルオーケストラ公演を実施し、質の高い芸術鑑賞の機会を提供する。 ・実施主体 (公財)岡山文化芸術創造						
	2 おかやま文化芸術アソシエイツ事業 《6,235 千円》 県と県文化連盟が同連盟内に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」の高い専門性を生かし、文化芸術に関する相談支援、情報発信、人材育成、ネットワークづくり及びアーティストバンクを活用した芸術家の活動支援などの総合窓口として、継続的に取り組むことにより、芸術家や文化団体等による文化活動の促進を図る。 ・実施主体 (公社)岡山県文化連盟						
事業の意図 効果等	【意図】 ・若手芸術家の発表の場の提供や地域の文化資源を生かした新たな創造活動を図るとともに、地域文化の担い手を育成する。 ・講座による人材の育成を行うとともに、講座修了後も、修了生への支援を行うことで、より多くのアートマネジメント人材の定着化を図る。 ・「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能を活用することにより、芸術家や文化団体等の活動を支援する。 【効果】 ・若手芸術家の活躍や文化を活用した地域振興により、本県文化の底上げが図られる。 ・アートマネジメント人材の育成を行うとともに、地域に定着できるまで集中的な支援を行うことで、県内各地域において、自主性・持続性のある取組が活発化し、地域文化を担う人材育成による本県文化の底上げ・アートの力を活用した地域の活性化が図られる。 ・本県の文化芸術の総合窓口である「おかやま文化芸術アソシエイツ」の機能を生かし様々な支援を行うことにより、芸術家や文化団体等の活動が促進され、もって本県文化の底上げが図られる。						
事業目標	事業	生き活き指標、重要業績評価指標(KPI) 等			現状値	目標値	差
	1 (1) (2) (3)	生き活き・KPI おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数			173 件(R3)	190 件(R6)	17 件
事業費の見積もり	区 分		R4 予算額	R5 予算要求額	R6 見込額	R7 見込額	R8 以降見込額
	事業費(単位：千円)		88,940	22,173	22,173	0	0
	財源内訳	国 庫	11,462	0	0	0	0
		起 債	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一 般 財 源	77,478	22,173	22,173	0	0

学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する 総合的なガイドライン【概要】

- 少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、速やかに部活動改革に取り組む必要。その際、生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ、新しい価値が創出されるようにすることが重要。
- 令和4年夏に取りまとめられた部活動の地域移行に関する検討会議の提言を踏まえ、平成30年に策定した「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」及び「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を統合した上で全面的に改定。これにより、学校部活動の適正な運営や効率的・効果的な活動の在り方とともに、新たな地域クラブ活動を整備するために必要な対応について、国の考え方を提示。
- 部活動の地域移行に当たっては、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下、生徒の望ましい成長を保障できるよう、地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備。地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り、体験格差を解消することが重要。

※Ⅰは中学生を主な対象とし、高校生も原則適用。Ⅱ～Ⅳは公立中学校の生徒を主な対象とし、高校や私学は実情に応じて取り組むことが望ましい。

Ⅰ 学校部活動

教育課程外の活動である学校部活動について、実施する場合の適正な運営等の在り方を、従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示す。

(主な内容)

- ・教師の部活動への関与について、法令等に基づき業務改善や勤務管理
- ・部活動指導員や外部指導者を確保
- ・心身の健康管理・事故防止の徹底、体罰・ハラスメントの根絶の徹底
- ・週当たり2日以上以上の休養日の設定（平日1日、週末1日）
- ・部活動に強制的に加入させることがないようにする
- ・地方公共団体等は、スポーツ・文化芸術団体との連携や保護者等の協力の下、学校と地域が協働・融合した形で環境整備を進める

Ⅱ 新たな地域クラブ活動

学校部活動の維持が困難となる前に、学校と地域との連携・協働により生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方を示す。

(主な内容)

- ・地域クラブ活動の運営団体・実施主体の整備充実
- ・地域スポーツ・文化振興担当部署や学校担当部署、関係団体、学校等の関係者を集めた協議会などの体制の整備
- ・指導者資格等による質の高い指導者の確保と、都道府県等による人材バンクの整備、意欲ある教師等の円滑な兼職兼業
- ・競技志向の活動だけでなく、複数の運動種目・文化芸術分野など、生徒の志向等に適したプログラムの確保
- ・休日のみ活動をする場合も、原則として1日の休養日を設定
- ・公共施設を地域クラブ活動で使用する際の負担軽減・円滑な利用促進
- ・困窮家庭への支援

Ⅲ 学校部活動の地域連携や

地域クラブ活動への移行に向けた環境整備

新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり、多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組むため、その進め方等について示す。

(主な内容)

- ・まずは休日における地域の環境の整備を着実に推進
- ・平日の環境整備はできるところから取り組み、休日の取組の進捗状況等を検証し、更なる改革を推進
- ・①市区町村が運営団体となる体制や、②地域の多様な運営団体が行き届く体制など、段階的な体制の整備を進める
- ※地域クラブ活動が困難な場合、合同部活動の導入や、部活動指導員等により機会を確保
- ・令和5年度から令和7年度までの3年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ、地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す
- ・都道府県及び市区町村は、方針・取組内容・スケジュール等を周知

Ⅳ 大会等の在り方の見直し

学校部活動の参加者だけでなく、地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の運営の在り方を示す。

(主な内容)

- ・大会参加資格を、地域クラブ活動の会員等も参加できるよう見直し
- ※日本中体連は令和5年度から大会への参加を承認、その着実な実施
- ・できるだけ教師が引率しない体制の整備、運営に係る適正な人員確保
- ・全国大会の在り方の見直し（開催回数の精選、複数の活動を経験したい生徒等のニーズに対応した機会を設ける等）

学校部活動の地域連携、地域クラブ活動への移行の全体像（イメージ）

学校部活動

【位置付け】学校教育の一環（教育課程外）

指導者	当該校の教師
参加者	当該校の生徒
場所	当該校の施設
費用	用具、交通費等の実費
補償	災害共済給付



学校部活動の地域連携

■ 合同部活動の導入や部活動指導員等の適切な配置により生徒の活動機会を確保

指導者	部活動指導員等、関係校の教師 (※アスリート・アーティスト等の人材を含む)
参加者	関係校の生徒
場所	拠点校の施設
費用	用具、交通費等の実費
補償	災害共済給付

■ 少子化の中、持続可能な体制にする必要
(学校や地域によっては存続が厳しい)

■ 地域の実情に応じた段階的な体制整備

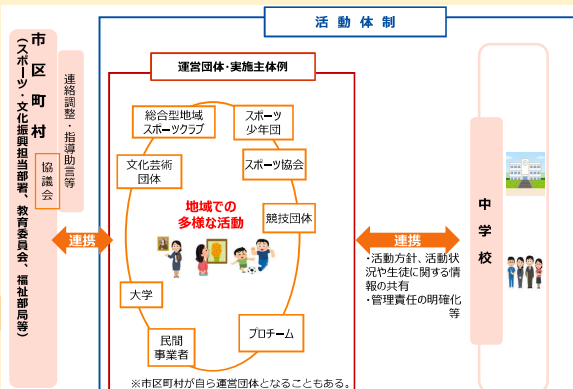
地域の実情に応じ、当面は併存

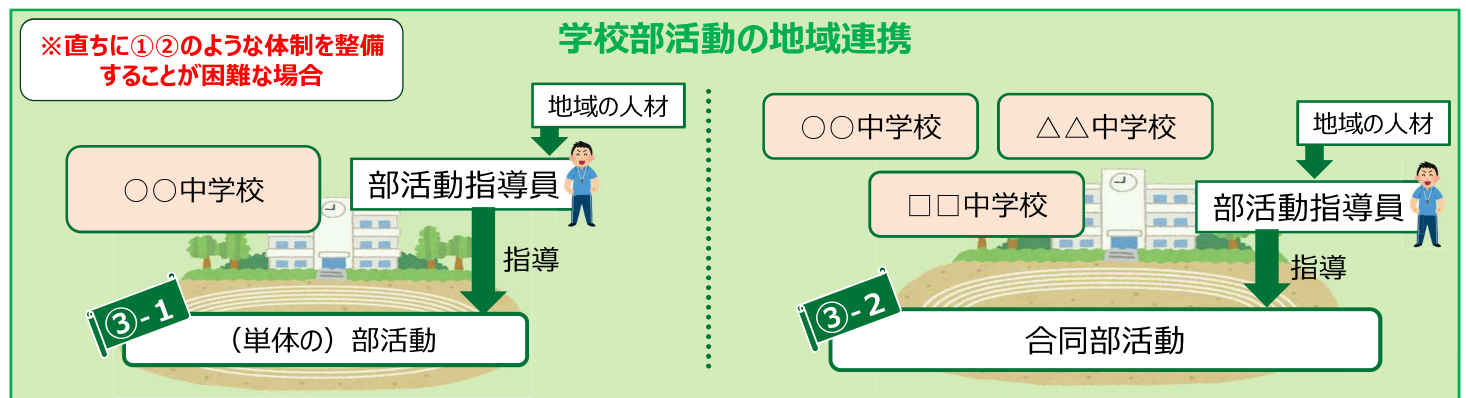
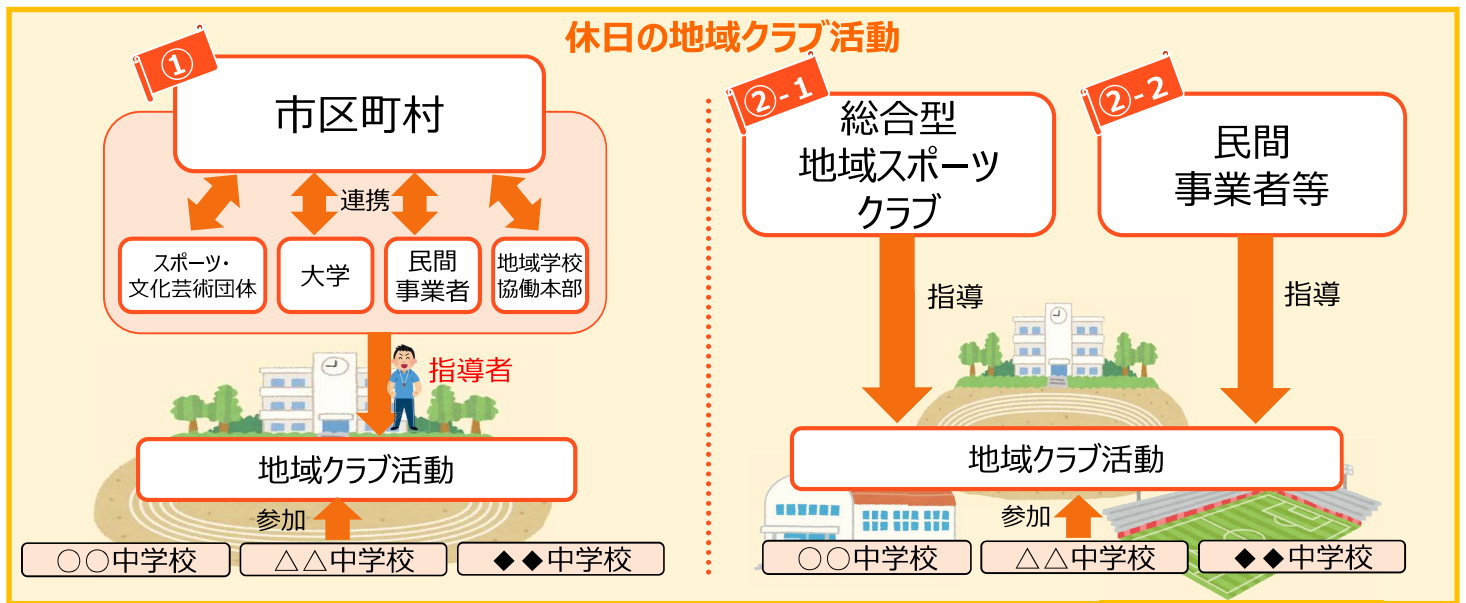
休日の地域クラブ活動

【位置付け】学校と連携して行う地域クラブ活動
(法律上は社会教育、スポーツ・文化芸術)

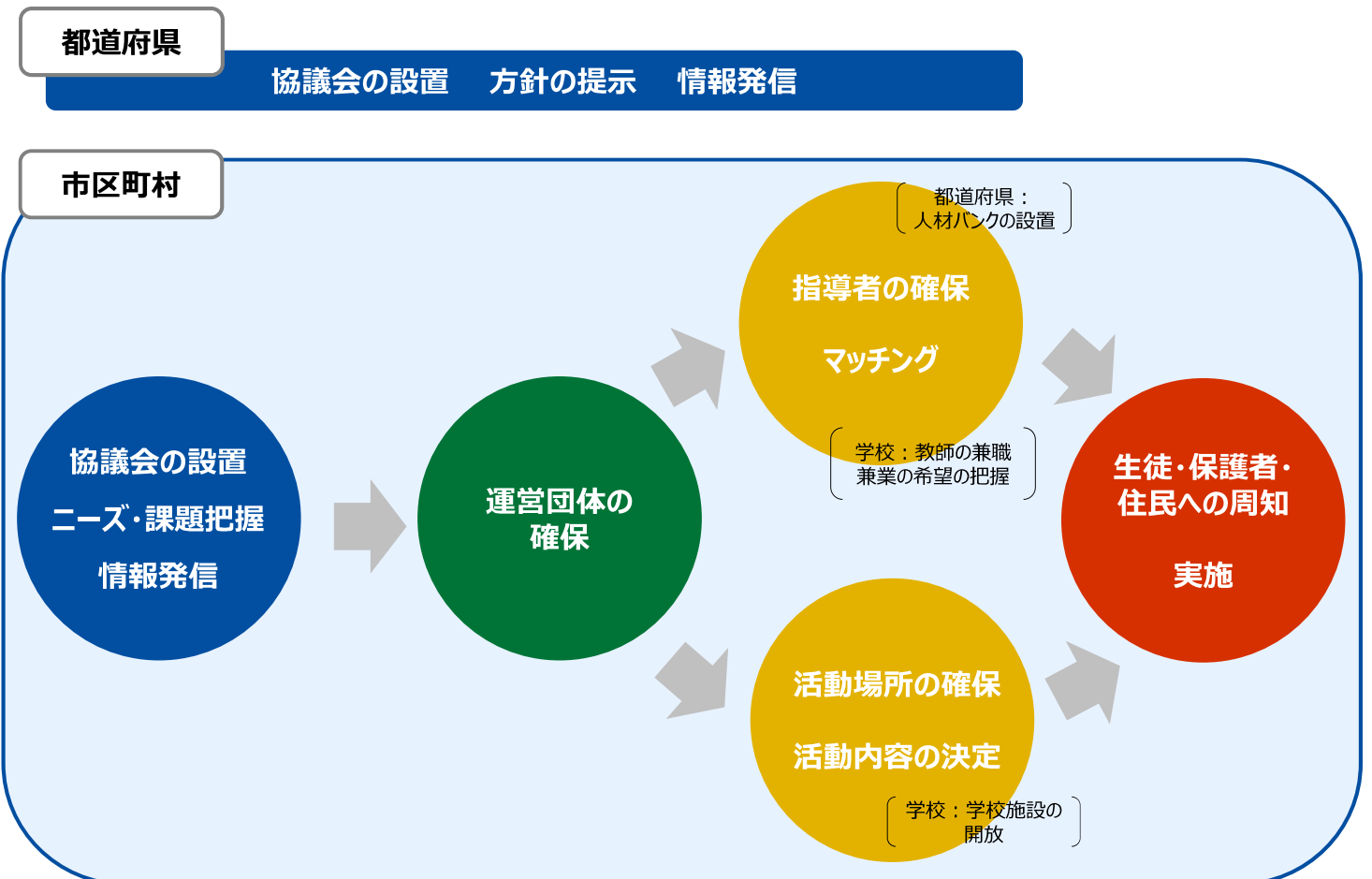
■ 地域の多様な主体が実施。学校は、活動方針、活動状況や生徒に関する情報の共有等を通じて連携。

運営団体・実施主体	① 地方公共団体（※複数地方公共団体の連携を含む） ② 多様な組織・団体（総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、体育・スポーツ協会、競技団体、プロチーム、民間事業者、大学、文化芸術団体、地域学校協働本部、同窓会等）
指導者	地域の指導者（一部教師の兼職兼業）
参加者	地域の生徒（※他の世代と一緒に参画する場合を含む）
場所	学校施設、社会教育施設、公共のスポーツ・文化施設、地域団体・民間事業者等が有する施設
費用	可能な限り低廉な会費＋用具、交通費等の実費
補償	各種保険等





休日の部活動の地域移行に係る手順の流れ（イメージ例）



休日の部活動の地域移行に係る要素（例）

	関係者の巻き込み・合意形成	運営団体の確保	指導者の確保	その他環境整備	実施
都道府県	【スポーツ・文化振興担当部署】 ・協議会を設置 ・方針の提示 ・手引きやHPの作成、説明会の実施等を通じて 情報を発信	【スポーツ・文化振興担当部署】 ・都道府県単位のスポーツ・文化芸術団体との連携	【スポーツ・文化振興担当部署】 ・指導者の発掘・把握 ・人材バンクの設置 【教育委員会】 ・兼職兼業の規定・運用の改善	【協議会】 ・施設利用の効率的運用等を検討し、利用ルール等を策定	【スポーツ・文化振興担当部署】 ・活動を広く周知
市区町村	【スポーツ・文化振興担当部署】 ・教育委員会等とも連携し、 協議会を設置 【協議会】 ・関係者へのヒアリング等を実施 ・ニーズ・課題を把握 【スポーツ・文化主管課】 ・手引きやHPの作成、説明会の実施等を通じて 情報を発信	【スポーツ・文化振興担当部署・協議会】 ・地域スポーツ・文化活動を担う運営団体を確保 【協議会】 ・運営団体との連携体制を構築	【協議会】 ・人材バンクの活用 ・地元の民間企業・大学等との連携 ・地域人材の掘り起こし 【協議会】 ・運営団体・実施主体との マッチングを実施	【協議会】 ・学校施設や社会教育施設等の 活動場所を確保 ・施設利用の効率的運用等を検討し、利用ルール等を策定 【協議会】 ・地域クラブ活動における 活動内容を決定	【スポーツ・文化振興担当部署】 ・活動を周知し、実施
スポーツ・文化芸術団体、民間事業者等	・上記協議会への参画 ・上記ヒアリングの対応	・上記取組への協力・参画	・人材バンクへの人材登録 ・研修等を通じた指導者の 質・量の確保	【運営団体】 ・地域クラブ活動における具体的な活動内容を決定	【運営団体】 ・活動を周知し、実施
学校	・上記協議会への参画 ・教師のニーズ把握 ・生徒・保護者のニーズ把握		・教師の兼職兼業の希望の把握	・利用ルールに基づく学校施設の開放	・活動方針、活動状況や生徒に関する情報の共有 ・地域クラブ活動について周知

来年度の県の取組について

県の取組（予定）

【県環境文化部】

■協議会の設置・開催、文化・スポーツ団体との意見交換会の開催等

【県教育委員会】

■「部活動の地域移行」推進事業

・少子化の進行と学校の働き方改革への対応が求められる中、将来にわたり子どもたちがスポーツ・文化芸術に継続して親しむことができる機会を確保するため、部活動の地域移行に向けた実践研究等を実施

- 市町村による地域移行等に向けた実践研究
 - 円滑な地域移行に向けた拠点校での実践研究：4市町村程度
 - 合同部活動の実践研究：1市町村程度
- 地域移行支援アドバイザーの市町村への派遣
 - 地域移行に知見を有する者をアドバイザーとして市町村等へ派遣し、地域移行のための方策の検討や課題解決に向けた助言等を行う。
- 県立中学校等における地域移行の在り方に係る検討

スケジュール（予定）

部活動の改革推進期間

	R4	R5	R6	R7
環境文化部	・地域移行に係る諸会議への参画 ・地域移行説明会への参加	☐ 県協議会の開催 ☐ 関係団体との意見交換会の開催		
県教育委員会	・地域移行に係る諸会議の実施 ・モデル事業実施 ・地域移行説明会実施 ・地域移行支援アドバイザー派遣等	「部活動の地域移行」推進事業 ☐ 市町村による地域移行等に向けた実践研究 ☐ 地域移行支援アドバイザーの市町村への派遣 ☐ 県立中学校等における地域移行の在り方に係る検討		

おかやま旧日銀ホールの指定管理者の指定について

次のとおり、指定管理者を指定するものとする。

- 1 管理を行わせる施設 岡山市北区内山下一丁目6番20号
おかやま旧日銀ホール
- 2 指定管理者となる団体 岡山市北区内山下一丁目6番20号
特定非営利活動法人 バンクオブアーツ岡山
理事長 横 山 圭 介
- 3 指 定 の 期 間 令和5年4月1日から令和10年3月31日まで

(参 考)

特定非営利活動法人 バンクオブアーツ岡山の概要

- (1) 設 立 平成16年4月6日
- (2) 役 員 数 20名（理事18名、監事2名）
- (3) 社 員 数 46名（役員を含む）
- (4) 目 的 広く県民に対して上質な文化芸術の鑑賞機会を提供するとともに、地域で文化芸術活動を行っている個人や団体に対して、活動発表の場の提供や育成支援活動を行い、岡山県の文化芸術の振興と県民文化の向上に寄与する。
- (5) 事業内容
 - ① 文化芸術に関する公演等の企画実施
 - ② 文化芸術活動への支援及び人材の育成
 - ③ 文化芸術に関する情報の収集・提供・発信
 - ④ 文化芸術に根ざした街づくりの推進
 - ⑤ 旧日銀岡山支店の有効活用の推進

岡山県立美術館の指定管理者の指定について

次のとおり、指定管理者を指定するものとする。

- 1 管理を行わせる施設 岡山市北区天神町8番48号
 岡山県立美術館
- 2 指定管理者となる団体 大阪府大阪市中央区備後町1丁目7番10号
 大林ファシリティーズ株式会社大阪支店
 取締役副社長執行役員大阪支店長 森 良史
- 3 指 定 の 期 間 令和5年4月1日から令和10年3月31日まで

(参 考)

大林ファシリティーズ株式会社大阪支店の概要

- (1) 設 立 昭和38年10月1日
- (2) 役 員 数 10名（取締役8名、監査役2名）
- (3) 資 本 金 5,000万円
- (4) 事業内容 ① 建物及び設備の清掃、管理及び雑作業の請負
 ② 警備業法で定義される警備業の受託
 ③ 建設工事の請負並びに調査、設計及び監理

教育庁文化財課の主な取組

1 庭園調査事業

県教育委員会では、県内の庭園の所在や現況、価値を明らかにすることを目的として、造営後50年を超過した庭園を対象に、令和3年度から令和6年度までの4年間の調査事業を行っている。

〈事業の進め方〉

年 度	内 容
令和3年度	・調査委員会立ち上げ ・一次調査実施【337箇所】、二次調査対象庭園を選定【82箇所】
令和4年度	・調査委員会開催（現地確認、進捗状況報告） ・二次調査（現地調査）開始【約40箇所】 ・文化庁調査官現地指導
令和5年度	・調査委員会開催（現地確認、進捗状況報告） ・二次調査（現地調査）【約40箇所】 ・文化庁調査官現地指導
令和6年度	・二次調査（現地調査）終了 ・調査委員会開催（調査報告、報告書内容等協議） ・報告書刊行



現地調査の様子

令和4年12月の国の文化審議会において、清水氏庭園（笠岡市）が登録記念物（名勝地関係）に登録されることになりました。

2 おかやま民俗芸能フェスティバル2022

県内各地に伝わる民俗芸能の鑑賞の機会を県民に提供することにより、県内の民俗芸能に対する理解と関心を深めるとともに、民俗芸能団体に子どもたちも参加する発表の機会を提供し、後継者の育成を図ることを目的に、隔年で実施している。

〈令和4年度実績〉 開催日時：令和4年11月6日（日） 13:00～15:00
会 場：久米南町文化センター
演 目 等：多自枯鴨神社の棒遣い〔建部祭り〕（岡山市）
宮内踊（岡山市）
バンバ踊（久米南町）
横仙歌舞伎（奈義町）



多自枯鴨神社の棒遣い

令和4年11月30日、白石踊（笠岡市）と大宮踊（真庭市）を含む「風流踊」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。この登録を契機として、貴重な民俗芸能が、今後も保存・継承されることが期待されます。

3 県立博物館部分開館

県立博物館では、令和2年度から実施していた耐震補強及び老朽化改修工事等が令和4年3月に完了し、枯らし期間（工事で使用した建材などから発生するガスが文化財に影響を及ぼさないようにするための養生期間）を経て、令和5年1月7日から2月19日までの間で、部分開館（1階展示室のみ）を行っている。（2階展示室を含めた全面開館は令和5年4月予定）

〈改修工事の概要〉

項 目	主な施工内容
耐震改修等	耐震壁新設、屋上防水シート更新、外壁塗装
展示室改修	展示ケース更新（2階のみ）、空調設備更新、吸音板設置（天井）
収蔵庫改修	空調設備更新、調湿材・防湿シート設置（壁）、防湿シート（天井）

〈部分開館の概要〉

開館期間：令和5年1月7日（土）～2月19日（日）

展示内容：・「幕末を彩った人々 ～その書簡を見る、読む～」

幕末維新期に活躍した徳川斉昭・藤田東湖・大久保利通・木戸孝允らの書簡等

・「開館時の博物館」

県立博物館の幻の設計図や記念植樹の際の写真など、昭和46年の開館当時の県立博物館に関連する資料や写真等



おかやま文化振興ビジョン
(2018～2027)

2023改定版

(最終案)

岡山県

[目 次]

I	ビジョン改定に当たって・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	これまでの経緯と改定の趣旨	
2	位置付け	
3	対象範囲	
4	期 間	
II	文化振興の基本的視点・・・・・・・・・・・・・・・・	3
1	文化振興の基本的視点	
	(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重	
	(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備	
	(3) 芸術家等の育成	
	(4) 県民の協働による文化の振興	
	(5) 将来の世代への文化の継承	
2	県の役割	
	(1) 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり	
	(2) 県民文化の継承・発展	
	(3) 未来を創り、拓いていく担い手育成	
	(4) 「文化の力」の充実と活用	
	(5) 文化ネットワークの形成	
III	基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」	
IV	基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・	7
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	
2	文化が地域の元気を生み出す岡山	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	
V	具体的施策・・・・・・・・・・・・・・・・	8
1	文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山・・・・・・・・	9
	(1) 将来の地域文化の担い手育成	
	(2) 県民参加による新たな文化の創造	
	(3) 県民の文化創造活動の振興	
	(4) 障害のある人の文化芸術活動の推進	

2	文化が地域の元気を生み出す岡山	13
	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	
	(2) 文化の力を活用した地域の活性化	
	(3) 地域資源としての文化の積極的な活用	
3	文化発信しながら交流を広げる岡山	16
	(1) 文化による連携・交流の促進	
	(2) 岡山からの文化発信	
VI	文化振興のための体制づくり	18
1	文化行政推進体制の充実	
2	政策形成への民意の反映等	
VII	文化振興ビジョンにおける成果指標	19

I ビジョン改定に当たって

1 これまでの経緯と改定の趣旨

岡山県では、平成12（2000）年3月に21世紀を展望した「岡山県文化振興ビジョン」を策定し、平成18（2006）年3月には、県民の主体的な文化活動を尊重し、多様な主体との協働により、心豊かに生きることができる地域社会の実現を目指した「岡山県文化振興基本条例」を制定しました。そして、この条例制定を契機として、「おかやま文化振興ビジョン」を平成20（2008）年2月に新たに策定し、各種施策に取り組んできました。

また、県では、平成16（2004）年の「県立図書館」、平成17（2005）年の「天神山文化プラザ」、「ルネスホール」などの開館や「岡山県文化連盟」の創設などハード・ソフトの両面から施策を実施し、着実に成果を上げてきました。

さらに、平成22（2010）年秋に開催した「第25回国民文化祭・おかやま2010」（愛称：「あっ晴れ！おかやま国文祭」）では、これまで蓄積された岡山の文化を生かし、新しい文化の創造や発展に取り組むとともに、全国へ向けて岡山の文化を発信する大きな機会となりました。

一方、本県において、令和2（2020）年3月に新型コロナウイルスの感染者が確認されて以降、感染症が急激に拡大し、その後の緊急事態宣言の発令等を受け、文化芸術団体や文化施設は公演等のイベントの中止、延期、規模縮小を余儀なくされるとともに、地域では祭礼や民俗芸能等の伝統行事なども大きな影響を受けました。しかし、コロナ禍という未曾有の困難と不安を経験する中であっても、文化芸術は、県民に感動や生きる喜びを与え続けました。

令和3（2021）年度からの4年間の県政推進の羅針盤である「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」では、重点戦略として「安心で豊かさが実感できる地域の創造」を掲げ、この度のコロナ禍が文化の価値を見つめ直す機会になったことも踏まえ、文化の振興を通じて、豊かで潤いのある暮らしや活力のある地域の創造を目指すこととしています。

今回、こうした社会経済情勢等の変化を受け、あらためて浮かび上がった課題や新たな生活様式の実践の中で生まれた取組等も踏まえながら、本県文化の一層の振興を図る施策を効果的に展開し、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくためにこのビジョンを改定するものです。

2 位置付け

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第7条に定める「文化の振興に関する基本的な計画」としての役割を担うもので、長期的視点に立った今後の本県文化行政の施策の方向性を示すものです。

3 対象範囲

「文化」は様々に捉えられていますが、本ビジョンでは、岡山県文化振興基本条例に基づき、概ね次に掲げる芸術、生活文化、伝統文化などの各分野を対象としています。

さらに、文化の持つ力を活用した地域づくり・国際交流・産業振興・福祉・景観などの分野における取組も含めて検討しています。

(対象とする分野)

- ◇芸術（文学・音楽・美術・書道・写真・演劇・舞踊・工芸・デザインなど）、メディア芸術（映画・漫画・アニメーション・コンピュータなどを利用した芸術など）
- ◇生活文化（茶道・華道・囲碁・将棋・民芸・郷土料理・ファッションなど）、文字・活字文化
- ◇伝統文化（地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言など）

4 期 間

平成30（2018）年度から令和9（2027）年度までの10年間とします。

なお、令和4（2022）年度に中間見直しを行い、内容を改定しています。

Ⅱ 文化振興の基本的視点

1 文化振興の基本的視点

このビジョンは、岡山県文化振興基本条例第3条に掲げた5つの基本理念を基本的な視点として策定します。

(1) 自由な発想と主体的な文化活動の尊重

文化の創造は、芸術家のみならず、すべての人の創造活動により実現するものです。こうした人間の自由な精神に基づいた多様な創造活動は、個人の生活の質を高め、その個性や創造性を引き出す原動力になります。

こうしたことから、県民一人ひとりの自由な発想と主体的な文化活動が尊重され、すべての人が自由な発想を持って活動することにより、文化が活性化され、より豊かで特色ある創造的な地域文化が生まれるという視点を幅広く共有することが重要です。

(2) 文化を創造し、享受することができる環境の整備

文化を創造し、享受することは、人々の生まれながらの権利です。県内どこに住んでいようと、誰もが等しく文化を創造し、享受することができる環境を整えていかななくてはなりません。

これまで、県内各地で公立文化施設等の整備が進められ、施設面では充実してきましたが、文化を享受する機会についてはまだ地域的に大きな開きがあります。

こうしたことから、文化に関する情報提供や各地域における文化を育む環境の整備を通じて、広く県民が様々な形の文化に触れ、文化の創造活動に参加できるとともに、創造性や個性を発揮しやすい環境をつくることが重要です。

(3) 芸術家等の育成

多様で優れた文化を創造し、継承し、発展させていくためには、文化に関する創造活動に携わる芸術家をはじめ、文化施設や文化団体で企画・研究等を行う学芸員やアートマネジメント※1担当者、文化財等の保存技術保持者や研究者、伝統芸能の伝承者などの活動と相互の連携が欠かせません。

こうしたことから、これらの人々が活動成果を発表する機会の確保に加えて、文化に関する幅広い人材の育成・活用や資質向上のための研修等の充実を図ることが重要です。

※1 アートマネジメント：文化施設の運営や文化団体の活動、あるいは、文化関係の催しに対し効果的で大きな成果をあげるための活動の総称。具体的には、企画制作、管理関係業務、広報活動、持続的に活動するための組織経営などが含まれます。

(4) 県民の協働による文化の振興

文化は、地域の魅力を創造し、豊かな地域づくりの礎になるとともに、人々に精神的な豊かさや感動を与え、生きる力と喜びをもたらすなど、様々な面で私たちの生活を支えているものです。

文化の持つこのような力の人づくりや地域づくり、さらには地域産業の活性化に生かしていくことが必要です。

また、文化活動を行うNPO等の増加、大学と地域の連携、文化活動を支援する企業のメセナ活動など、行政以外の分野でも様々な取組が広がりつつあります。

こうしたことから、県民・文化団体・NPO・企業・大学など、様々な主体と行政が、目標を共有しながら、その目標に向かって、ともに力を合わせて活動する文化の振興を進めていくことが重要です。

(5) 将来の世代への文化の継承

地域の歴史と風土の中で育まれてきた文化財・工芸・民俗芸能・祭り・行事・方言などの伝統文化は、人々の暮らしや生き方を支える基盤であるとともに、全国・世界に誇りうる貴重な財産です。また、これらの伝統文化は県民の誇りと心のよりどころであり、県民の活力を高め、新しい価値を創造する源であるとともに、将来の地域発展の基礎となるものです。

こうしたことから、県内各地の個性ある伝統文化や埋もれた文化資源を掘り起こし、県民共有の財産として尊重し、将来の世代に伝えていくことが重要です。

2 県の役割

県の役割は、地域における文化振興の総合的なコーディネーターとして、芸術家等の育成支援や、県民や民間団体等の主体的な文化活動が活発に行われるような環境づくりを図るとともに、あらゆる人々が文化に親しみ、参画することで地域に文化が育まれる風土づくりを醸成し、文化活動の成果がよりよい地域づくりに生かされるよう努めていくことです。

このため、岡山県文化連盟(公益社団法人岡山県文化連盟、以下同じ。)に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」^{※2}の機能も活用しながら、次の役割に重点を置き、施策を推進していきます。

※2 おかやま文化芸術アソシエイツ:岡山県と岡山県文化連盟が、文化連盟内へ設置している組織であり、県内の文化団体等の活動支援やコーディネート、文化事業に関わるあらゆる相談窓口業務等を行うことを目的としています。

（１）県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり

多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、文化活動に参加できる環境づくりや、県民が文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

（２）県民文化の継承・発展

これまで蓄積されてきた岡山の伝統的文化を取り入れながら、世代や分野を超えた新しい文化が創造され発展するよう取り組んでいくとともに、この度のコロナ禍に象徴されるように、社会経済情勢等の変化により、文化芸術を取り巻く環境がどのような影響を受けても、岡山の文化を揺るぎないものとして次世代へ継承し、発展させていくよう努めます。

（３）未来を創り、拓いていく担い手育成

将来の岡山の文化を担う子どもや若者らが、様々な文化を体験できる機会を充実するとともに、若手芸術家の育成など、未来を創り、拓いていく担い手の育成に努めます。また、文化芸術に親しみ理解を深める取組を通じ、文化芸術を積極的に楽しむ層の拡大に努めます。

（４）「文化の力」の充実と活用

文化の持つ「人々を感動させ魅了する力」、「地域の魅力や価値を高める力」等に着目し、その力を高めて地域づくり・産業振興・福祉などに生かし、地域の活性化に努めます。

（５）文化ネットワークの形成

文化の持つ力を高め、文化活動を活発化させるため、人・もの・地域・情報を結びつける仕組みづくりに努めます。

Ⅲ 基本目標

「人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山」

岡山県は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古代吉備からの長い歴史を通じて、人・もの・情報が活発に行き交う水陸の交通の要衝として栄えてきました。

そうした中で、先人が育み守り伝えてきた独自の文化と、時代ごとに新たに創造された文化とが交流し、融合する中で、岡山の文化を形成してきました。

今また、県民の自主的な文化活動や幅広い交流を図ることで、新しい文化が生み出されようとしています。

県民一人ひとりが岡山の文化に愛着心と誇りを持ち、県民の協働によって岡山の文化を継承・創造・発信しながら発展させていきます。そして、その豊かで特色ある岡山の文化が人々の心の豊かさや活力を一層向上させます。このような好循環が県民の自由な発想と活発な文化活動によって生み出され、岡山の文化の質がさらに高まっていくことを目指します。

Ⅳ 基本方針

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

県民一人ひとりが文化を創造し、楽しみ、感動する機会を平等に得られることが大切です。そのためには、あらゆる県民が居住地域にかかわらず、創作活動に参加したり、鑑賞体験できる機会を充実させる必要があります。

また、若手芸術家への支援や文化サポーター^{※3}の育成など、文化を創造し、支える人材の育成を図る必要があります。

このため、多くの県民が子どもの頃から様々な文化に親しみながら、各地域で文化の伝承・創造活動に参加できる環境づくりや、文化に興味を持ち、文化を尊重する風土づくりに努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

文化の持つ力は、県民の自信と活力を高め、新しい価値を創造する源であり、豊かな地域づくりに欠かすことができません。

また、地域固有の歴史と風土の中で育まれてきた伝統文化や、歴史的なまちなみ、集落や都市の景観、自然環境等は、県民の誇りと心のよりどころであり県民共有の財産です。

文化の持つ力でこれらの地域の魅力や価値をさらに掘り起こし、地域の特色や魅力を生かした取組を展開することで、観光や地域産業の活性化など、豊かな地域づくりにも文化の力を生かしていきます。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

古くから交通の結節点となって栄えてきた岡山の歴史が語るように、人・もの・情報が活発に行き交う時代と地域にあってこそ多様な文化が融合し、向上し、新しい文化が育まれます。

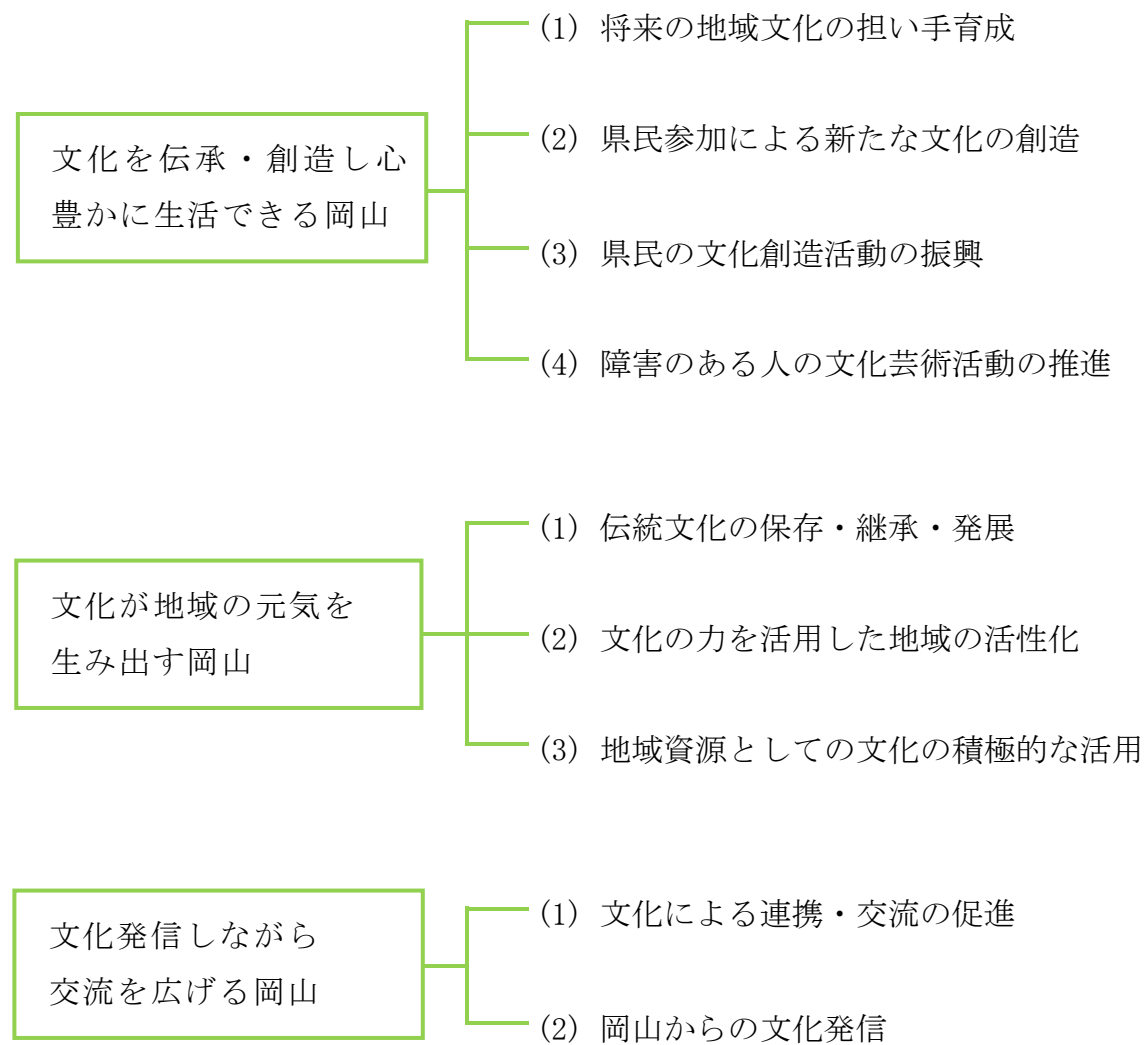
また、地域固有の文化は、人々の心を結びつけ、相互理解と連携を深める上で重要な役割を果たすとともに、郷土への愛着心を育みます。

このようなことから、それぞれの分野で活動する文化団体等がお互いに幅広い交流を行い、連携を深められるよう努めるとともに、岡山の魅力を伝える文化の積極的な発信と多様な文化の受信に取り組みます。

※3 文化サポーター：文化活動に主体的に参画する人や、文化イベントの支援を行うボランティアなど、文化活動に関与する県民を広く総称するものです。文化サポーターを育成・支援し、相互のネットワークを構築する組織として、岡山県文化連盟内に「おかやま文化芸術アソシエイツ」が設置されています。

V 具体的施策

(施策体系)



1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

(1) 将来の地域文化の担い手育成

学校や地域において、子どもや若者が本物の文化に触れ、豊かな感性や創造性を育む機会を充実することにより、次世代の文化の担い手となる、心豊かな子どもや若者の育成を図ります。

(重点施策)

○郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実

岡山ゆかりの人物をわかりやすく紹介するガイドブックや文化財めぐりに便利なマップ等の作成、文化財に関する情報の整理・充実、インターネット等を活用した発信など、子どもや若者が、郷土の歴史や有形・無形の文化財に親しむ機会の充実を図ります。

○学校教育における文化活動の充実

「総合的な学習の時間」など様々な学習機会の場においてインターネット等もうまく活用しながら、芸術や伝統文化等に親しむ教育の充実や、児童生徒が発表する機会や優れた文化を鑑賞する機会の充実を図ります。

また、学校の各教科等の授業や文化部活動の活性化を図るため、音楽や美術等の指導を行う教員の資質向上を図るとともに、優れた地域の芸術家や文化活動の指導者などと教員が協力して、様々なプログラムを作成し指導ができる取組を促進し、学校における芸術教育や文化活動の充実を図ります。

なお、休日の文化部活動の段階的な地域連携や地域クラブ活動への移行について、令和4（2022）年12月にスポーツ庁及び文化庁から公表された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」に基づき、今後、検討が進められていく中で顕在化する様々な課題も踏まえ、地域の文化芸術団体や市町村等と連携・協力しながら、児童生徒が将来にわたって文化芸術に継続して親しむ機会を確保できるような環境整備に努めます。

○子どもや若者の文化活動の充実

子どもや若者を対象とした文化公演等への支援を行うとともに、民間団体等との連携などにより文化活動の場や機会の充実を図ります。また、文化・芸術の指導者や民俗芸能・伝統工芸などの継承者を講師とする学校出前講座の実施や、美術館、博物館などの文化施設や文化団体等によるアウトリーチ活動^{※4}の充実を図るなど、社会のデジタル化が急速に進む中であっても、優れた文化芸

※4 アウトリーチ活動：アウトリーチの本来の意味は、手を伸ばすこと。日頃、文化に触れる機会が少ない人々へ文化施設などが館外で行う普及活動をいいます。

術に実際に触れる機会を創出することで、未来を担う子どもたちの文化に対する感性を育む取組を促進します。

○教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実

子どもたちに文化に関する指導を行う教員の資質の向上を図るため、県立博物館、県立美術館、古代吉備文化財センターなどの県立文化施設を活用した研修の充実を図ります。また、次代を担う学生等が多様な文化に触れる機会を増やし、心豊かで地域に誇りと愛着心を持つことにつながるような研修機会の充実を図ります。

○芸術系専門学科を有する高校や大学との連携

県立文化施設と県内の芸術系専門学科を有する高校や大学が、部活動、職場実習、出前講座などによる連携を通じ、新たな文化活動の創出、ネットワークの構築を図ります。

(2) 県民参加による新たな文化の創造

県民による文化活動の充実を図るため、文化活動を担う人材及び団体等の育成及び活用に努めます。また、次世代を担う新進芸術家が活動成果を発表する機会の充実に努めます。

(重点施策)

○岡山県文化連盟の機能強化

岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」は、この度のコロナ禍において、県内の文化団体等に対して活動を継続するための相談・支援等の取組に大きな役割を果たしたところであり、引き続き、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進する総合窓口としての機能の充実、強化を図ります。

○文化団体への活動支援

岡山県文化連盟、岡山県郷土文化財団(公益財団法人岡山県郷土文化財団、以下同じ。)等と連携して、県内の文化団体が自らのレベルアップを図るためのノウハウや、国や民間団体の各種助成制度についての情報提供等に努めます。

○アートマネジメントの推進

文化施設・文化団体の担当者、舞台技術者、学芸員などを対象に、企画制作、広報等資質向上のための研修や交流機会の充実を図ります。

また、地域における文化活動を支えていけるよう、企画、制作、演出などが

できる人材を育成するとともに、その人材を民間団体、NPO等が有効に活用できるような仕組みを構築します。

○文化サポーターの育成

県内各地で展開される、分野や世代を超えた活発な文化活動を様々な形でサポートする人材を育成、活用し、今後の充実した文化活動へと結びつけます。

○芸術家等の創造活動への支援

地元の芸術家等による創造活動を支援するため、市町村や地域住民と協力しながら、おかやま県民文化祭をはじめとした活動の場の充実に努めます。

また、次の世代を担う若手芸術家を育成するため、新進美術家を対象とした岡山県新進美術家育成「I氏賞」を活用するなど本県ゆかりの若手芸術家の発表の場を提供するよう努めます。

(3) 県民の文化創造活動の振興

広く県民が、身近なところで文化についての理解及び関心を高め、質の高い文化を鑑賞するとともに、文化の創造活動に参加できるような環境の整備を進め、優れた地域文化の形成に努めます。

(重点施策)

○文化施設の利用促進・機能強化

県立美術館、県立博物館、天神山文化プラザ、ルネスホール、県立図書館、県立記録資料館などの文化施設の利用促進に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策により培った経験等も踏まえ、安全で安心して過ごすことができる環境を整えます。

また、すべての人々に利用しやすく多様なサービスを効率的に提供できる地域の文化の拠点となるよう、学芸員や職員の研修の充実、資料のデジタル化、外国語表記の充実など、様々な手法を活用し文化施設の機能強化を図ります。

さらに、県民が身近に文化活動を行うことができる場の充実に努めるため、学校の空き教室や廃校施設、歴史的建造物、公共空間、商店街の空き店舗等、地域の文化資源についても、県民や地域の文化関係者の文化活動への幅広い利用を促進します。

○質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供

広く県民が多様な文化に親しみ新しい価値に出会うことができるよう、県立美術館、県立博物館等においては、郷土ゆかりの資料の収集に努め、充実した展示を行うとともに、多くの人が文化に気軽に親しみ鑑賞できる企画展を開催します。

また、国や公益法人等が行う支援制度の活用や民間団体、NPO等による公演等への支援を通じて多くの県民が国内外の質の高い美術や舞台芸術等を鑑賞できる機会の充実を図るとともに、デジタルアートなど、新しい分野の鑑賞機会の提供にも取り組みます。

さらに、社会のデジタル化が急速に進展していることを踏まえ、あらゆる人々が、文化芸術に興味・関心を持つきっかけとなるよう、オンライン配信はもとより、VR（仮想現実）、AR（拡張現実）などの先端技術の活用も検討します。

○文化に関する情報提供の充実

文化の情報拠点機能を持つ天神山文化プラザ等において、各種文化情報の収集に努めるとともに、その情報はメディア等を用いて広く県民に対し発信します。

また、県内の文化団体や文化施設等が持つ情報を総合的に集約・発信し、誰もが本県の文化に関する情報を容易に入手できるよう、ホームページの内容を充実させることで、効果的な情報提供に努めます。

○おかやま県民文化祭の充実

県民の文化への関心や、県内各地の文化活動の取組を根付かせ、伝統ある地域文化や新たに創造された特色ある文化を県民が身近に感じられる機会を提供するため、県民との協働によるおかやま県民文化祭の充実に努めます。

（４）障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が文化に親しむことは、交流の拡大・生きがい・生活の充実等につながるものです。障害のある人が、文化芸術活動を行い、鑑賞することのできる環境づくりに取り組みます。

（重点施策）

○障害のある人の文化芸術活動の推進

障害のある人が、自身の文化芸術活動を発表する場の充実を図るとともに、障害の有無にかかわらず文化に親しみ、障害のある人となない人が共に文化芸術活動を行うことができる環境づくりに努めます。

○文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等

博物館、美術館等における文化公演や展示等において、字幕や音声案内サービスの提供等、障害のある人のニーズに応じた工夫・配慮が提供されるように努めます。

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

岡山県には、「岡山後樂園」「吉備津神社」「旧閑谷学校」などの文化財や、「備前焼」「備前刀」などの伝統工芸、「備中神楽」「白石踊」「横仙歌舞伎」などの伝統芸能など全国に誇る豊かな伝統文化があります。

このような穏やかで恵み豊かな自然・風土が、古代吉備以来、各時代に多彩な文化を育んできた岡山県の歴史を物語る文化遺産を、県民共有の財産として適切に保存し、その中に含まれる先人の知恵を汲み出し、本質を学び、そして次世代に継承するとともに、今に生きる文化として発展させ、積極的な活用を図ります。

(重点施策)

○民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用

地域の祭り、民俗芸能、伝統行事、伝統工芸技術、先人が日常生活の中で伝えてきた知恵などを保存・継承をするための調査や記録保存、発信を推進するとともに、伝統工芸展や民俗芸能の祭典等の発表機会への参加促進や、後継者の育成、保存団体のネットワーク化を推進します。

○古代吉備文化遺産の保存・活用

古代吉備の豊かな文化遺産を体感できるよう、文化遺産の特性や適切な保存に配慮しつつ、積極的な活用を行い、県民が歴史や文化に触れ、親しむ機会を充実します。そのため、県・市町村が連携して、主要な遺跡や建造物等の文化遺産の保存・活用を図ります。

さらに、地域の文化財保護団体との連携によるボランティアの育成・活用など、文化財保護活動の充実を図ります。

○郷土の誇る先人顕彰の推進

様々な分野における郷土の先人の功績をたたえ次世代に伝え、学びや新たな創造を促すため、先人の功績の記録・顕彰、遺品・資料・作品の収集及び公開を推進します。

○ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援

「日本の書道文化」など、後世に伝えていくべき無形文化を、ユネスコ無形文化遺産に登録する活動の支援に努めます。

（２）文化の力を活用した地域の活性化

地域の風土に根ざし、先人が守り伝えてきた様々な伝統文化や、地域固有の全国に誇りうる文化資源を改めて認識し、民間団体、ＮＰＯ、大学等と連携しながら、地域で芽吹く新たな創造活動の活性化に努め、文化の力による地域のにぎわいの創出を促進します。

（重点施策）

○地域固有の文化資源の掘り起こし

伝統文化、優れた景観、地域の歴史を素材とした文化活動などは、再評価や有効活用により、地域を特徴づけるシンボルとなります。

このような県内各地に存在する特色ある文化資源を幅広く掘り起こし、ブランド化を図り、地域づくりに生かしていきます。

○文化による地域のイメージアップとにぎわい創出

文化を核とした地域づくりを推進するため、地域の文化素材を生かした取組を行っている団体やＮＰＯ等を支援します。また、アートイベントに必要な企画力、コーディネート力等のスキルを備えた人材育成などを通じ、文化による地域のにぎわい創出を図ります。

○国内外のアーティストの地域への受け入れ

地域の作家や住民、ＮＰＯ、市町村などが主体となり、国内外のアーティストを招へいして、地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンス※⁵を行い、今まで気づかなかった地域の魅力の再発見に繋げていきます。

○美しく魅力ある景観づくりの推進

地域に残る歴史的な建造物や魅力ある町並み、美しい自然、調和の取れた集落や都市の景観は、人々の情緒・感性を豊かにし、潤いと安らぎを人々に与えます。

このような地域が誇る風景や自然、地域の特色ある生活などの文化資源を活用した美しく魅力ある景観づくりを推進します。

○歴史・自然を生かした豊かな「暮らし文化」※⁶の振興

各地に伝わる祭り、行事、郷土料理など人々の生活により形作られてきた衣食住に関わる「暮らし文化」は、本県の自然、歴史、伝統、また農業をはじめとする産業にも根ざした重要な資源であり、未来への継承に努めるとともに、その魅力を国内外へ発信していきます。

※⁵ アーティスト・イン・レジデンス：アーティストを招聘し、滞在期間中に作品を制作してもらうこと、また、それらの活動を支援することをいいます。

※⁶ 暮らし文化：瀬戸内海に面した岡山ならではのばら寿司や、備中杜氏の技術に支えられた酒などの食文化、各地に伝わる特色ある伝統行事などをいいます。

○国際的なアートイベントとの連携

国際的なアートイベントは、本県の文化シーンに新たな魅力を付け加え、国内外からの観光客の増加をもたらします。このため、アートイベントとの連携を十分に図るとともに、その効果が、県内に広く波及し、相乗効果が上がるよう取り組みます。

(3) 地域資源としての文化の積極的な活用

地域の文化資源に内在する先人の英知や創造性などを活用して、繊維産業・観光産業をはじめ、文化財等の情報を効果的に発信し、文化を通じて地域の魅力を高めます。

(重点施策)

○繊維産業の振興

伝統に基づくものづくり技術や豊かな感性を生かし、技術開発や人材育成、産地ブランド化を総合的に推進し、生活文化であるファッションに大きく寄与している繊維産業を伝統分野から高度先端分野まで幅広く対応できる産業へ飛躍させる取組を進めます。

○観光産業の振興

伝統文化や産業文化遺産、建築文化遺産などの地域固有の文化資源を掘り起こし、新たな観光資源として積極的に活用することにより、魅力ある観光地づくりに努めます。

また、文化振興と観光振興部門の連携を図ることにより、地域文化の魅力を伝える観光や、観光PRを活用した地域文化の情報発信を促進します。

○文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用

豊かな歴史を象徴する文化財や歴史的建造物などの文化遺産を、その特性や適切な保存に配慮しつつ、広く県民が親しむことができるよう公開・活用します。

また、有形・無形の文化資源を観光・産業振興等に活用するための取組を進めます。

○日本遺産^{※7}の魅力発信

岡山県の歴史的魅力にあふれた文化財や伝統文化をわかりやすくストーリー化した「日本遺産」の魅力を県内外に発信していくことにより、地域の活性化を図ります。

※7 日本遺産：文化・伝統を語るストーリーを文化庁が「日本遺産」として認定するものです。ストーリーを語る上で欠かせない魅力あふれる有形や無形の様々な文化財群を総合的かつ一体として活用し、地域活性化を図ることを目的としています。

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

(1) 文化による連携・交流の促進

文化の交流を通じ、地域の文化活動の活発化や人々の相互理解を深めるため、県内各地の特色ある文化、伝統行事など地域の文化資源を活用した地域間交流や、世界の様々な地域の人々との交流を促進します。

(重点施策)

○文化ネットワークの形成

芸術家や、文化団体、NPO、ボランティアなどの文化に関わる多様な主体が活動できる環境をサポートするため、研修機会の充実を図るとともに、官民での情報交換や交流を通じて文化活動の運営や企画を支える人材のネットワークづくりを推進します。

また、アーツカウンシル・ネットワーク※⁸など全国各地にある団体とのつながりの場を活用しながら、先進事例の情報収集や情報共有を行います。

○国内文化交流の促進

世代や分野を超えた文化団体や人々の交流の広がりを通じて、県内外の文化交流や全国大会への参加を促進するとともに、文化関係の全国大会や中四国大会などの誘致を推進します。

○国際文化交流の促進

文化施設における外国語表記を充実させ、県内在住の外国人や外国人旅行者が本県の文化に親しみやすい環境づくりを推進します。

また、文化団体、NPO等が行う海外の芸術家によるアーティスト・イン・レジデンスの取組を支援します。

(2) 岡山からの文化発信

国内外における岡山の認知度を高めるため、メディア等の効果的な活用や人的交流を通じて、伝統文化から現代文化まで、多様な文化の魅力の国内外へ向けた積極的な発信を推進します。

※8 アーツカウンシル・ネットワーク：独立行政法人日本芸術文化振興会と全国各地のアーツカウンシル機能（専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能）を有する組織である「地域アーツカウンシル」の連携・交流ネットワークです。それぞれの課題やノウハウを共有することで、連携を促進し、わが国の地域における文化芸術の推進体制の構築、発展を図ることを目的としています。おかやま文化芸術アソシエイツは、アーツカウンシル・ネットワークに加入しています。

(重点施策)

○文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信

美術品や文化財など様々な文化に関する情報について、デジタル技術を活用したアーカイブ化による記録・保存に取り組むとともに、インターネット等を活用した情報発信を推進します。

○ソーシャルメディア等の活用による魅力発信

文化情報を集約するポータルサイトや、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを効果的に活用し、本県の文化資源や文化プログラムなどを積極的に国内外に情報発信します。

○おかやま独自の文化発信

本県の文化を積極的に発信する取組を通じ、県民に本県の魅力を再認識してもらうとともに、他県に在住している本県出身者の郷土愛を高め、岡山の文化の素晴らしさを共有できるよう努めます。

また、国内外における岡山の認知度を高め、県民が岡山の文化に愛着心と誇りが持てるような岡山ならではの文化発信に努めます。

Ⅵ 文化振興のための体制づくり

1 文化行政推進体制の充実

文化の分野の広がりや文化振興の多様化を踏まえ、県の各部局の緊密な連携・協力により、文化の総合的なコーディネーターとしての役割を担えるよう、総合的な文化振興を推進するとともに、文化活動の調査・分析などの支援に努めます。

また、岡山県郷土文化財団や岡山県文化連盟をはじめ、芸術家・文化団体・NPO・企業・大学・市町村など本県の文化を担う多様な主体との連携を一層強化していきます。

さらに、文化団体やアーティストなどの創造活動への支援やコーディネート、また、文化団体相互の連携を促進するため、岡山県文化連盟内に設置している「おかやま文化芸術アソシエイツ」の充実、強化に取り組めます。

2 政策形成への民意の反映等

文化行政を推進する上で、県民の多様なニーズを把握することが重要であることから、文化の振興に関する施策形成や事業実施に際して、文化振興審議会の意見聴取、有識者等の積極的活用による県民の多様な意見の反映に努めます。

また、県全体の事業について選択と集中を図る中、文化振興の施策についても適切な評価を行い、支援の重点化と効率化を図る必要があることから、文化振興審議会の意見も聴きながら事業効果の把握に努め、各施策を評価し、事業実施に反映します。

Ⅶ 文化振興ビジョンにおける成果指標

【基本方針】

※H29策定時数値について

・指標名に《累計》と表記がないものは原則として、
H24(2012)～H28(2016)年度の平均値を使用

1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
文化施設利用者数	483,612人	267,800人	419,000人	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数				

【重点施策】

(1) 将来の地域文化の担い手育成

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	1,661人	2,500人	
(説明)授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数				
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	196回	530回	
(説明)岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数				
優れた芸術を鑑賞した学校数 《累計》	668校 (～H28)	1,294校 (～R3)	1,800校 (～R9)	
(説明)県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計				
アウトリーチ活動実施回数	39回	17回	29回	
(説明)県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数				

(2) 県民参加による新たな文化の創造

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
おかやま文化芸術アソシエイツ への相談件数《累計》	—	537件 (～R3)	1,000件 (～R9)	
(説明)おかやま文化芸術アソシエイツ(H29.7.31設立)への相談件数の累計				
県が実施するアートマネジメント 講座修了者数《累計》	69人 (～H28)	127人 (～R3)	220人 (～R9)	
(説明)県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				
県立美術館ボランティア数	89人	93人	100人	
(説明)県立美術館に登録しているボランティア数				
岡山県美術展覧会への応募点 数	3,296点	2,282点	3,300点	
(説明)岡山県美術展覧会へ一般応募された作品(日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻)の点数				

(3) 県民の文化創造活動の振興

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
文化施設利用者数【再掲】	483,612人	267,800人	419,000人	
(説明) 県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館の利用者数				
「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合	30.2% (H28調査)	26.2%	38.0%	
(説明) 県民満足度調査「普段の生活の中で、芸術・文化、スポーツ等を実践したり、観て楽しめる地域になっている」と感じている人の割合				
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数	25,697件	7,409件	51,000件	【変更】
(説明) 県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数				
県民文化祭参加者数	370,978人	141,246人	215,000人	
(説明) おかやま県民文化祭への総参加者数				
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	—	173件	190件 (R6実施分)	【新規】 生き生きプラン指標
(説明) おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数				

【基本方針】

2 文化が地域の元気を生み出す岡山

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数《累計》	69人 (～H28)	519人 (～R3)	950人 (～R9)	
(説明) おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計				

【重点施策】

(1) 伝統文化の保存・継承・発展

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
日本伝統工芸展への応募点数	116点	57点	70点	
(説明) 日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数				

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
登録文化財の登録件数《累計》	275件 (～H28)	343件 (～R3)	367件 (～R9)	
(説明)登録文化財の登録件数の累計				

(2)文化の力を活用した地域の活性化

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
県民文化祭地域フェスティバル 実行委員会への参加団体数	118団体	242団体	270団体	
(説明)おかやま県民文化祭地域フェスティバル(備前・備中・美作)の実行委員会に参加した団体数				
県が実施するアーティスト・イン・ レジデンス事業の1事業当りの 平均参加者数	—	—	4,400人	【変更】
(説明)県が実施するアーティスト・イン・レジデンス事業の1事業当りの平均参加者数				

【基本方針】

3 文化発信しながら交流を広げる岡山

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
文化施設ホームページアクセス 件数	360,035件 (H28実績)	816,717件	1,039,000件	
(説明)県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数				

【重点施策】

(1)文化による連携・交流の促進

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
文化に関わる人々のネットワー クづくりのためのワークショップ 等受講者数《累計》	—	959人 (～R3)	1,500人 (～R9)	
(説明)おかやま文化芸術アソシエーツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ(H29 年度開始)受講者数の累計				
国民文化祭への派遣団体数	8団体	6団体	10団体	
(説明)国民文化祭への派遣団体数				

(2)岡山からの文化発信

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 9 年度 (2027)	備考
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数【再掲】	25,697件	7,409件	51,000件	【変更】
(説明)県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数				
県立美術館Instagramのフォロワー数《累計》	—	—	5,000人 (～R9)	【変更】
(説明)県立美術館のInstagram(H30年度開設)のフォロワー数の累計				

【参考指標】

指 標 名	H29策定時数値 ※ (2017)	現状値 R 3 年度実績 (2021)	目標値 R 6 年度 (2024)	備考
外国人旅行者宿泊者数	133,082人	9,753人	487,000人	生き活きプラン指標
(説明)県が調査している外国人旅行者宿泊者数				
観光入込客数	1,433万人	1,099万人	1,600万人	生き活きプラン指標
(説明)観光庁「観光入込客統計」(暦年調査)による観光入込客数				
後樂園の入園者数	744,039人	267,801人	850,000人	生き活きプラン指標
(説明)後樂園の入園者数				